

(受住8-2)

神明宮東市営住宅改修計画に基づく

屋根ほか改修工事

図面リスト					
A-00	表紙・図面リスト	—	E-01	電気設備工事特記仕様書-1	—
A-01~06	建築改修工事 特記仕様書1~6	—	E-02	電気設備工事特記仕様書-2	—
A-07	付近見取図	—	E-03	ポンプ室電気図、照明器具姿図	1/200
A-08	配置図・仮設計画図	1/2500	E-04	電気設備 各階平面図	1/200
A-09	各棟 3階平面図	1/100			
A-10	各棟 既存屋根伏図・部分詳細図	1/100 1/20	M-01	機械設備工事 特記仕様書-1	—
A-11	各棟 立面図	1/100	M-02	機械設備工事 特記仕様書-2	—
A-12	改修屋根詳細図	1/5	M-03	凡例・配水管縦断図	
A-13	コンクリート舗装復旧図	1/200 1/100・30	M-04	配置図	1/200
A-14	自転車置場塗装改修詳細図	1/100 1/30・10	M-05	1階平面図 給水、排水改修図	1/100
			M-06	1階平面図 既設給水、排水撤去図	1/100
			M-07	受水槽ポンプ室 平面図等	1/30

建築改修工事 特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 _____

2. 敷地面積 _____ m²

3. 建築物概要

棟名	構造	階数	建築面積(m ²)	延べ面積(m ²)	備考
					○執務並行改修 ○全館無人改修
					○執務並行改修 ○全館無人改修
					○執務並行改修 ○全館無人改修

4. その他 _____

【2】 適用範囲

現場説明書(質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)をいう。(以下、これを「改修仕様」という。)

本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修仕様」の適用を受けるものとする。

【3】 工事区分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修仕様」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「改修仕様」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項																																																																																				
3	特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。																																																																																				
1	4 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速 (Vo) ○ 3.2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第454号) 地表面粗度区分 ○ I ○ II ○ III ○ IV 多雪地域の指定 ○ なし ○ あり																																																																																				
5	現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。																																																																																				
6	工事工程報告	月報は毎月末日に、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週()曜日に提出する。																																																																																				
7	工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する (適用事項は、現場説明書による)																																																																																				
8	設備工事との取合い	施工範囲 ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ○ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。																																																																																				
9	施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。																																																																																				
10	工事写真 (1.2.4)	工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編(最新版)(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)によるほかは監督職員の指示による。 下記のものに監督職員に提出する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>部数</th> <th>分</th> <th>類</th> <th>規</th> <th>格</th> <th>原</th> <th>版</th> <th>の</th> <th>大</th> <th>き</th> <th>(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着工前</td> <td>○ 1</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーサービス版</td> <td>○ 24</td> <td>○ 36</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事中</td> <td>○ 1</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーサービス版</td> <td>○ 24</td> <td>○ 36</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内</td> <td>○ 2</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーサービス版</td> <td>○ 24</td> <td>○ 36</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>完成時</td> <td>○ 2</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーサービス版</td> <td>○ 60</td> <td>○ 70</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外観</td> <td>○ 2</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーサービス版</td> <td>○ 24</td> <td>○ 36</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>カラーパネル半切</td> <td>○ 60</td> <td>○ 70</td> <td>○</td> <td>以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒色の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。 完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。 ○完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者(建築写真専門業者)とする。		部数	分	類	規	格	原	版	の	大	き	(mm)	着工前	○ 1	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上		工事中	○ 1	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上		屋内	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上		完成時	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 60	○ 70	○	以上		外観	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上		その他	○	○	○	○	○	カラーパネル半切	○ 60	○ 70	○	以上	
	部数	分	類	規	格	原	版	の	大	き	(mm)																																																																											
着工前	○ 1	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上																																																																												
工事中	○ 1	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上																																																																												
屋内	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上																																																																												
完成時	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 60	○ 70	○	以上																																																																												
外観	○ 2	○	○	○	○	カラーサービス版	○ 24	○ 36	○	以上																																																																												
その他	○	○	○	○	○	カラーパネル半切	○ 60	○ 70	○	以上																																																																												
11	電気保安技術者 (1.3.3)	適用する																																																																																				
12	施工条件(1.3.5)	現場説明書による																																																																																				
13	発生材の処理等 (1.3.12)	○ 引渡しを要するもの() ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの() ○ 指定副産物の搬出(詳細は現場説明書による) ○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ○ 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地(詳細は現場説明書による) ○ 指定処分地() ○ 自由処分地(最寄りの再資源化施設へ搬出すること) ○ 指定副産物以外の搬出 ○ 構外搬出適切処理 ○ () ○ 特別管理産業廃棄物 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 廃石綿等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCBを含む機器類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCB含有シーリング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃油</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ(臭化リチウム)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ(蓄電池電解液)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ S F 6ガス使用機器</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ○ 廃石綿の処分地 (東京都環境保全公社瑞穂センター) せっこうボードの処理方法 ○ 石綿含有せっこうボードの処理 改修仕様9.1.5による ○ ひ素・カドミウム含有のせっこうボードの処理 ○ 製造業者にて処分 ○ 埋立処分 ○ その他のせっこうボードの処理 ○ 最終処分 ○ 再資源化	種類	処理方法	○ 廃石綿等		○ PCBを含む機器類		○ PCB含有シーリング		○ 廃油		○ 廃酸・廃アルカリ(臭化リチウム)		○ 廃酸・廃アルカリ(蓄電池電解液)		○ S F 6ガス使用機器																																																																					
種類	処理方法																																																																																					
○ 廃石綿等																																																																																						
○ PCBを含む機器類																																																																																						
○ PCB含有シーリング																																																																																						
○ 廃油																																																																																						
○ 廃酸・廃アルカリ(臭化リチウム)																																																																																						
○ 廃酸・廃アルカリ(蓄電池電解液)																																																																																						
○ S F 6ガス使用機器																																																																																						

章	項目	特記事項																																												
1	一般共通事項	PCB含有シーリング材の分析調査 ○ 行う()箇所 ○ 行わない PCB含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 ○ 蛍光灯ランプ ○ HIDランプ ○ 硬質塩化ビニル管・継手 再生資源利用【促進】計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書による。 マニフェスト制度 ○ 産業廃棄物管理票(マニフェスト)制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれ許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。																																												
14	石綿含有建材の調査 (1.5.1)	調査 ○ 行う 石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。 調査範囲 ※ 図示による ○ _____ 調査事項 ※ 石綿使用部位の確認 ※ 石綿層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない 石綿含有分析方法 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○ (箇所数) ()</td> <td>○ (箇所数) ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ (箇所数) ()</td> <td>○ (箇所数) ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ (箇所数) ()</td> <td>○ (箇所数) ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ (箇所数) ()</td> <td>○ (箇所数) ()</td> </tr> </tbody> </table> サンプル数 1箇所あたり3サンプル ○ 行わない 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ○ なし	材 料 名	定性分析	定量分析		○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()		○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()		○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()		○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()																													
材 料 名	定性分析	定量分析																																												
	○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()																																												
	○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()																																												
	○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()																																												
	○ (箇所数) ()	○ (箇所数) ()																																												
15	調査のための破壊部分の補修 (1.6.3)	既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____																																												
16	技能士 (1.7.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種別</th> <th>適用する技能士の技能検定における選択作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工事</td> <td>○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>○ 鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>○ 左官作業 ○ 型枠工事作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>○ コンクリート送込工事作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工事</td> <td>○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工事</td> <td>○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工事</td> <td>○ 金属製ブロック工事作業 ○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>○ フラット防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ クラウド系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ フラット系塗膜防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アクリル樹脂系防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>○ 石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>○ タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工事</td> <td>○ 大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとい工事</td> <td>○ 内外装板金作業 ○ かからぶき作業 ○ スレート工事作業</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>○ 左官作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>○ 建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア工事作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>○ 建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 溶融アスファルトマーカ工事作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 加熱アスファルトマーカ工事作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 造園工事作業</td> </tr> </tbody> </table> ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	○ とび作業	鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業	コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業	鉄骨工事	○ コンクリート送込工事作業	ブロック及びALC工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業	ブロック及びALC工事	○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業	ブロック及びALC工事	○ 金属製ブロック工事作業 ○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業	防水工事	○ フラット防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ クラウド系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ フラット系塗膜防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アクリル樹脂系防水工事作業	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	○ タイル張り作業	木工事	○ 大工工事作業	屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かからぶき作業 ○ スレート工事作業	金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業	左官工事	○ 左官作業	塗装工事	○ 建築塗装作業	建具工事	○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア工事作業	内装工事	○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業	排水工事	○ 建築配管作業	舗装工事	○ 溶融アスファルトマーカ工事作業	舗装工事	○ 加熱アスファルトマーカ工事作業	舗装工事	○ 造園工事作業
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																													
仮設工事	○ とび作業																																													
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業																																													
コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業																																													
鉄骨工事	○ コンクリート送込工事作業																																													
ブロック及びALC工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業																																													
ブロック及びALC工事	○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業																																													
ブロック及びALC工事	○ 金属製ブロック工事作業 ○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業																																													
防水工事	○ フラット防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ クラウド系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ フラット系塗膜防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質アクリル樹脂系防水工事作業																																													
石工事	○ 石張り作業																																													
タイル工事	○ タイル張り作業																																													
木工事	○ 大工工事作業																																													
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かからぶき作業 ○ スレート工事作業																																													
金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業																																													
左官工事	○ 左官作業																																													
塗装工事	○ 建築塗装作業																																													
建具工事	○ ビーム用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア工事作業																																													
内装工事	○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業																																													
排水工事	○ 建築配管作業																																													
舗装工事	○ 溶融アスファルトマーカ工事作業																																													
舗装工事	○ 加熱アスファルトマーカ工事作業																																													
舗装工事	○ 造園工事作業																																													

章	項目	特記事項																
1	一般共通事項	17 施工の検査等 (1.7.5) 18 化学物質の濃度測定 (1.7.9) 19 完成図 (1.9.2) 20 保全に関する資料 (1.9.3)																
①	足場その他 (2.1.3) (2.2.1)	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ● 施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ _____ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ● 養生シート ○ ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ A種 ● B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種 (表2.2.1)																
②	仮設工事	足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省 基発第0424001号)」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中柱及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋根の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971(屋根工事用足場及び施工方法)の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。																
2	既存部分の養生 (2.3.1)	既存部分の養生 ※ 行う() ※ ビニールシート、合板 ○ _____) ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う ※ ビニールシート ○ _____) ○ 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ○ 行わない 養生の方法 ○ 取り外しのうえ清掃 ○ _____ 保管場所 ○ 室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ _____ 家具の移動 ○ 行う (図示) ○ 行わない																
3	仮設間仕切り (2.3.2)	既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。 ○ 設ける (図示) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>仕上げ(厚さmm)</th> <th>塗装</th> <th>充填</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ A種</td> <td>○ せっこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ○ 9.5mm</td> <td>○ なし ○ 片面</td> <td>グラスウール ○ 24kg/m³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm</td> </tr> <tr> <td>○ B種</td> <td>○ 合板 材質 ○ 3/4合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ C種</td> <td>全面シート張り</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填	○ A種	○ せっこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ○ 9.5mm	○ なし ○ 片面	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm	○ B種	○ 合板 材質 ○ 3/4合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm	○		※ C種	全面シート張り		
種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填															
○ A種	○ せっこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ○ 9.5mm	○ なし ○ 片面	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm															
○ B種	○ 合板 材質 ○ 3/4合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm	○																
※ C種	全面シート張り																	
4	監督職員事務所 (2.4.1)	○ 設けない 規模 ○ 10m ² 程度 ○ 20m ² 程度 ○ 35m ² 程度 ○ 65m ² 程度 ○ 100m ² 程度 仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ ビニール床シート敷き ○ パンチベアシート敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エポキシ樹脂塗 屋根 ○ 塗装溶融垂れつき鋼板張り ○ 鉄板張り鋼合板ベント塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける(畳敷き) ○ _____ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類カバン(上記6品、_____人分程度) ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ _____ ○ 改修仕様(令和4年版) ○ 建築改修工事監理指針(令和4年版) ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図(令和4年改定) ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編(最新版)																

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																				
⑤ 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる (● 有償 ○ 無償)	10 構造体強度補正值 (6.3.2)	※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2) <table border="1"> <tr> <th>予想平均気温 (°C)</th> <th>補正值</th> <th colspan="3">期 間 (打 設 日)</th> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>(S)</td> <td>南部地域</td> <td>中部地域</td> <td>北部地域</td> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3/6 ~ 6/30</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> <td>3/11 ~ 7/10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>N/mm²</td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> <td>9/1 ~ 10/31</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/6 ~ 3/10</td> <td>11/1 ~ 3/10</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td colspan="3">N/mm²</td> </tr> </table> <p>南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)</p>	予想平均気温 (°C)	補正值	期 間 (打 設 日)			普通	(S)	南部地域	中部地域	北部地域	8以上	5以上	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10		N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	0以上	0以上	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10	8未満	5未満	N/mm ²			3 防水改修工事	○ 断熱材 (屋根保護防水断熱工法) 厚さ _____ mm	③ 防水改修工事	接着工法の場合で、P-Cコンクリート部材下地の場合 目地処理 ※ 図示による ○ _____ 入隅部の増張り (S-F1、S1-F1の場合) ※ 図示による ○ _____ 絶縁用シート及び可塑性移行防止用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ _____ 仕上げ塗料 ○ 珪酸 ○ シリカ 脱気装置 (絶縁工法) ※ 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/____m ²) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステン鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの ○ _____						
予想平均気温 (°C)	補正值	期 間 (打 設 日)																																									
普通	(S)	南部地域	中部地域	北部地域																																							
8以上	5以上	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10																																							
	N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																																							
0以上	0以上	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10																																							
8未満	5未満	N/mm ²																																									
⑥ 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる (● 有償 ○ 無償)	11 コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)	※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する	4 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	○ 断熱材 (屋根露出防水断熱工法) 厚さ _____ mm 種類 _____	6 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">種 別 及 び 工 程</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ P 0 X 工法</td> <td>※ X-1 ○ X-2 ○ X-1H ○ X-2H</td> <td>表3.6.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ L 4 X 工法</td> <td>○ X-1 ※ X-2 ○ X-1H ○ X-2H</td> <td>表3.6.2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P 1 Y 工法</td> <td>※ Y-2</td> <td>表3.6.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P 2 Y 工法</td> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 別 及 び 工 程		防水層	施工箇所	仕上塗料						種類	使用量	○ P 0 X 工法	※ X-1 ○ X-2 ○ X-1H ○ X-2H	表3.6.1				○ L 4 X 工法	○ X-1 ※ X-2 ○ X-1H ○ X-2H	表3.6.2				○ P 1 Y 工法	※ Y-2	表3.6.3				○ P 2 Y 工法	○ _____				
種 別 及 び 工 程		防水層	施工箇所	仕上塗料																																							
				種類	使用量																																						
○ P 0 X 工法	※ X-1 ○ X-2 ○ X-1H ○ X-2H	表3.6.1																																									
○ L 4 X 工法	○ X-1 ※ X-2 ○ X-1H ○ X-2H	表3.6.2																																									
○ P 1 Y 工法	※ Y-2	表3.6.3																																									
○ P 2 Y 工法	○ _____																																										
⑦ 仮囲い等	● 図示による ○ _____	12 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m ³	5 合成高分子系フインゲシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示による ○ _____	7 漏水試験	※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ○ 屋外)																																				
8 設計GL	○ 図示による ○ 設計GL=現状GL	13 寒中コンクリート (6.11.1)	※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。	① 既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3) ~ (3.2.5)	絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上 (保護防水工法) ※ フラットヤーンクロス (70g/m ² 程度) ○ _____	8 保証書	※ 受注者、屋根施工業者、屋根材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限: 工事目的引渡しより 10年間以上とする。)																																				
1 埋め戻し及び盛土 (3.2.3)	○ A種 砂質土 (山砂の類) を水締め又は機器による締固め (表3.2.1) ○ B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め ○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め ○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ その他 (材料 _____ 工法 _____) ○ 建設発生土 (盛土材) の外部からの受入土量 (_____ m ³) 発生場所 (_____)	14 暑中コンクリート (6.12.2)	※ 量中における構造体強度補正值 (S) <table border="1"> <tr> <th>地 域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間 (打設日)</th> <th>補 正 値</th> </tr> <tr> <td>北 部 地 域</td> <td>7月11日~8月31日</td> <td>※ 6N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中 部 地 域</td> <td>7月21日~8月31日</td> <td>○ 3N/mm²</td> </tr> <tr> <td>南 部 地 域</td> <td>7月1日~9月10日</td> <td></td> </tr> </table>	地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6N/mm ²	中 部 地 域	7月21日~8月31日	○ 3N/mm ²	南 部 地 域	7月1日~9月10日		2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	○ 断熱材 (屋根露出防水断熱工法) 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M4 A S 工法 ○ AS-T1 ○ AS-T2 表3.4.1 ○ AS-J2	9 施工標識	工事後後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____ 設置数量 () 箇所																								
地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値																																									
北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6N/mm ²																																									
中 部 地 域	7月21日~8月31日	○ 3N/mm ²																																									
南 部 地 域	7月1日~9月10日																																										
2 建設発生土の処理 (3.2.5)	下記に定めるほかは、現場説明書による ○ 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ○ (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____ 土壌調査 ○ 行う (受入場所指定の検査) ○ _____ ○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例 施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ○ _____ ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積	⑤ コンクリートミサ車の過積載防止対策等 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。	② 土・鉄筋・コンクリート工事	4 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	○ 屋根露出防水密着工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M4 A S 工法 ○ AS-T1 ○ AS-T2 表3.4.1 ○ AS-J2	10 シーリング (3.1.4) (3.7.2) ~ (3.7.8)	シーリング材の種類 ※ 改修標仕 表3.7.1による シーリング改修工法及び施工箇所 <table border="1"> <thead> <tr> <th>改 修 工 法 の 種 別</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 拡幅シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ プリッジ工法</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	改 修 工 法 の 種 別	施 工 箇 所	○ シーリング充填工法		○ シーリング再充填工法		○ 拡幅シーリング再充填工法		○ プリッジ工法																											
改 修 工 法 の 種 別	施 工 箇 所																																										
○ シーリング充填工法																																											
○ シーリング再充填工法																																											
○ 拡幅シーリング再充填工法																																											
○ プリッジ工法																																											
3 鉄筋の種類 (5.2.1)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>異形鉄筋</th> <th>種類の記号</th> <th>径 (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※ SD295</td> <td>D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ SD345</td> <td>D19以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	異形鉄筋	種類の記号	径 (mm)	備 考		※ SD295	D16以下			※ SD345	D19以上			○ _____			③ 既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3) ~ (3.2.5)	③ 土・鉄筋・コンクリート工事	○ 屋根露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M3 A S 工法 ○ AS-T3 ○ AS-T4 表3.4.2 ○ P0 A S 工法 ○ AS-J1 ○ AS-J3	11 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)	※ 外とい(外気に接するとい) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 種</th> <th>そ の 他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ルーフドレン</td> <td>※ ルーフドレン (JCW 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する</td> </tr> <tr> <td>軒どい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm</td> </tr> <tr> <td>たてとい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>谷どい</td> <td>○ _____</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> <tr> <td>○ 内とい (V.P管は使用しない)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>たてとい及び横走り管</td> <td>○ SGP ○ _____ 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> <tr> <td>防露巻き</td> <td>※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆</td> </tr> </tbody> </table>	材 種	そ の 他	ルーフドレン	※ ルーフドレン (JCW 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する	軒どい	○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm	たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm	谷どい	○ _____	とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下	○ 内とい (V.P管は使用しない)		たてとい及び横走り管	○ SGP ○ _____ 径 75mm	とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下	防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆	
異形鉄筋	種類の記号	径 (mm)	備 考																																								
	※ SD295	D16以下																																									
	※ SD345	D19以上																																									
	○ _____																																										
材 種	そ の 他																																										
ルーフドレン	※ ルーフドレン (JCW 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する																																										
軒どい	○ 硬質塩化ビニル製 (角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm																																										
たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm																																										
谷どい	○ _____																																										
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下																																										
○ 内とい (V.P管は使用しない)																																											
たてとい及び横走り管	○ SGP ○ _____ 径 75mm																																										
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融垂鉛めっきを行ったもの 取付間隔 0.5m 以下																																										
防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆																																										
4 溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 100×100 鉄線の径 6 mm	2 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○ _____	5 合成高分子系フインゲシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 屋根露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M3 A S I 工法 ○ AS1-T1 表3.4.3 ○ M4 A S I 工法 ○ AS1-J1 ○ P0 A S I 工法																																						
5 コンクリートの種類 (6.2.1)	種類 ※ 普通コンクリート ○ _____ (表6.2.1) 類別 ※ I類 ○ II類	3 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 屋根保護防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P1 B 工法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ P1 B I 工法 ○ BI-1 ○ BI-2 表3.3.4 ○ P2 A I 工法 ○ AI-1 ○ AI-2 表3.3.5 ○ AI-3 ○ P2 A 工法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3		○ 屋根露出防水工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M4 C 工法 ○ C-1 ○ C-2 表3.3.7 ○ C-3 ○ C-4 ○ M3 D 工法 ○ D-1 ○ D-2 表3.3.8 ○ P0 D 工法																																						
6 コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)	設計基準強度 (F _c) <table border="1"> <tr> <th>打 設 部 位</th> <th>F_c (N/mm²)</th> <th>スランブ (cm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>構造体</td> <td>基礎 ○ 24 ○ 21</td> <td>○ 15 ○ 18</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>上部 ○ 24 ○ _____</td> <td>○ 15 ○ 18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>● 18 ○ _____</td> <td>● 15 ○ 18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>捨コンクリート</td> <td>○ 18 ○ _____</td> <td>○ 15 ○ 18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td> <td>○ 21 ○ _____</td> <td>※ 21 ○ 18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>※ 18 ○ _____</td> <td>○ 15 ○ 18</td> <td>標仕6.14.1による</td> </tr> </table> <p>※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [F_c+構造体強度補正值(S)] N/mm² (6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p>	打 設 部 位	F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	備 考	構造体	基礎 ○ 24 ○ 21	○ 15 ○ 18			上部 ○ 24 ○ _____	○ 15 ○ 18		土間コンクリート	● 18 ○ _____	● 15 ○ 18		捨コンクリート	○ 18 ○ _____	○ 15 ○ 18		軽量コンクリート	○ 21 ○ _____	※ 21 ○ 18		無筋コンクリート	※ 18 ○ _____	○ 15 ○ 18	標仕6.14.1による	① 既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3) ~ (3.2.5)	○ 屋根露出防水工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ P0 D I 工法 ○ DI-1 ○ DI-2 表3.3.9 ○ M3 D I 工法 ○ M4 D I 工法												
打 設 部 位	F _c (N/mm ²)	スランブ (cm)	備 考																																								
構造体	基礎 ○ 24 ○ 21	○ 15 ○ 18																																									
	上部 ○ 24 ○ _____	○ 15 ○ 18																																									
土間コンクリート	● 18 ○ _____	● 15 ○ 18																																									
捨コンクリート	○ 18 ○ _____	○ 15 ○ 18																																									
軽量コンクリート	○ 21 ○ _____	※ 21 ○ 18																																									
無筋コンクリート	※ 18 ○ _____	○ 15 ○ 18	標仕6.14.1による																																								
7 セメントの種類 (6.3.1)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種 (適用箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントB種 (施工箇所 _____)	○ 屋内防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P1 E 工法 ○ E-1 ○ E-2 表3.3.10 ○ P2 E 工法			○ 屋根露出防水工法 種 別 防水層 施工箇所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M4 S 工法 ○ S(1)-F1 表3.5.1 ○ S(1)-F2 ○ S(1)-M1 ○ S4 S I 工法 ○ S(1)-M2 ○ S3 S 工法 ○ S(1)-F1 表3.5.2 ○ S3 S I 工法 PC部材入隅増張 (※ 有り ○ 無し) 表3.5.3 ○ S(1)-F2 ○ M4 S 工法 ○ S(1)-M1 ○ S(1)-M2 ○ M4 S I 工法																																						
8 骨材 (6.3.1)	粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 銅スラグ ○ フォロコンスラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○ _____				S-F1、S-M1、S-M2の仕様 ※ 非歩行仕様 ○ 軽歩行仕様																																						
9 混和材料 (6.3.1)	○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフェーム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)				断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ _____ mm 種類 _____ 機械的固定工法の場合 ○ _____ 接着工法の場合 ○ _____																																						

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																				
3 防水改修工事	<p>※掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場をのぞく）</p> <p>○養生鉄管を設ける（径 厚さ 長さ）</p> <p>○既存との撤去及び養生</p> <p>○鋼管製との防露巻（※改修仕様表3.8.4による）</p> <p>○たてどい受金物</p> <p>(表3.9.1)(表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>幅</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面処理</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>○250形</td> <td>250</td> <td>1.6</td> <td>○AB-1種 ○AB-2種</td> <td>隅角部及び突当たり部</td> </tr> <tr> <td>○300形</td> <td>300</td> <td>1.8</td> <td>○AC-1種 ○AC-2種</td> <td>等の役物は本体製造の仕様による。</td> </tr> <tr> <td>○350形</td> <td>350</td> <td>2.0</td> <td>○BA-1種 ○BA-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○BB-1種 ○BB-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○板材</td> <td>○</td> <td>※2.0</td> <td>○BC-1種 ○BC-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○オープン形式</td> <td>○</td> <td></td> <td>○C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○パネル形式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>既存笠木等の撤去 ○ 行う（範囲 ○ 図示 ○） ○ 行わない</p> <p>下地補修の工法 ※ 図示 ○</p> <p>板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○</p> <p>建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の（※1 ○1.5 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法 雪止め ○設置する（形状及び施工箇所 ○図示による） ●設置しない</p> <table border="1"> <tr> <th>屋根形状</th> <th>材 料 の 種 類 等</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>下 葺 材 料</th> </tr> <tr> <td>●心木なし瓦葺葺</td> <td>※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4</td> <td>● 0.4</td> <td>● アスファルト・フィング 940</td> </tr> <tr> <td>○立平葺</td> <td>● カラーガルバリウム鋼板</td> <td></td> <td>○ 改質アスファルト・フィング 下葺材</td> </tr> <tr> <td>○蟻掛葺</td> <td>裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4</td> <td></td> <td>○ 一般タイプ</td> </tr> <tr> <td>○横葺</td> <td></td> <td></td> <td>○ 複層基材タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 粘着層付タイプ</td> </tr> </table> <p>参考メーカー：元且ビュティ工業 同等品以上 （施工時にアスファルトが飛散しないよう湿潤養生を行う。 なお、湿潤養生を実施する際は、漏水事故に注意する。）</p>	種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考	○250形	250	1.6	○AB-1種 ○AB-2種	隅角部及び突当たり部	○300形	300	1.8	○AC-1種 ○AC-2種	等の役物は本体製造の仕様による。	○350形	350	2.0	○BA-1種 ○BA-2種		○			○BB-1種 ○BB-2種		○板材	○	※2.0	○BC-1種 ○BC-2種		○オープン形式	○		○C種		○パネル形式					屋根形状	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料	●心木なし瓦葺葺	※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4	● 0.4	● アスファルト・フィング 940	○立平葺	● カラーガルバリウム鋼板		○ 改質アスファルト・フィング 下葺材	○蟻掛葺	裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4		○ 一般タイプ	○横葺			○ 複層基材タイプ				○ 粘着層付タイプ	4 外壁改修工事	<p>(4.1.4)</p> <p>(4.3.5)</p> <p>～(4.3.8)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <p>○樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200～300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○樹脂注入法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○手動式注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50～100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○機械式注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100～200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150～250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない 抜き個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>○ シール工法</p> <p>○ パテ状エポキシ樹脂</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130	○樹脂注入法				○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40	○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70		0.5以上1.0未満	○150～250	○130	4 外壁改修工事	<p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修仕様表4.4.2による ○ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○</p> <p>タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○</p> <p>シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	4 外壁改修工事	<p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所 の面積 (㎡)</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○タイル部分張替え工法</td> <td>0.25未満</td> <td>※ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○タイル張替え工法</td> <td></td> <td>○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修仕様表4.5.1による ○ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理 ○ 目荒し工法 (4.3.10(3)による) ○</p> <p>タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工 法	1箇所 の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所	○タイル部分張替え工法	0.25未満	※ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○タイル張替え工法		○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	
種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考																																																																																																							
○250形	250	1.6	○AB-1種 ○AB-2種	隅角部及び突当たり部																																																																																																							
○300形	300	1.8	○AC-1種 ○AC-2種	等の役物は本体製造の仕様による。																																																																																																							
○350形	350	2.0	○BA-1種 ○BA-2種																																																																																																								
○			○BB-1種 ○BB-2種																																																																																																								
○板材	○	※2.0	○BC-1種 ○BC-2種																																																																																																								
○オープン形式	○		○C種																																																																																																								
○パネル形式																																																																																																											
屋根形状	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料																																																																																																								
●心木なし瓦葺葺	※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4	● 0.4	● アスファルト・フィング 940																																																																																																								
○立平葺	● カラーガルバリウム鋼板		○ 改質アスファルト・フィング 下葺材																																																																																																								
○蟻掛葺	裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4		○ 一般タイプ																																																																																																								
○横葺			○ 複層基材タイプ																																																																																																								
			○ 粘着層付タイプ																																																																																																								
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																								
※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130																																																																																																								
○樹脂注入法																																																																																																											
○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40																																																																																																								
○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70																																																																																																								
	0.5以上1.0未満	○150～250	○130																																																																																																								
工 法	1箇所 の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所																																																																																																								
○タイル部分張替え工法	0.25未満	※ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																									
○タイル張替え工法		○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																									
13 屋根防水改修工事	<p>建築基準法に基づく風圧力の（※1 ○1.5 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法 雪止め ○設置する（形状及び施工箇所 ○図示による） ●設置しない</p> <table border="1"> <tr> <th>屋根形状</th> <th>材 料 の 種 類 等</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>下 葺 材 料</th> </tr> <tr> <td>●心木なし瓦葺葺</td> <td>※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4</td> <td>● 0.4</td> <td>● アスファルト・フィング 940</td> </tr> <tr> <td>○立平葺</td> <td>● カラーガルバリウム鋼板</td> <td></td> <td>○ 改質アスファルト・フィング 下葺材</td> </tr> <tr> <td>○蟻掛葺</td> <td>裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4</td> <td></td> <td>○ 一般タイプ</td> </tr> <tr> <td>○横葺</td> <td></td> <td></td> <td>○ 複層基材タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 粘着層付タイプ</td> </tr> </table> <p>参考メーカー：元且ビュティ工業 同等品以上 （施工時にアスファルトが飛散しないよう湿潤養生を行う。 なお、湿潤養生を実施する際は、漏水事故に注意する。）</p>	屋根形状	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料	●心木なし瓦葺葺	※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4	● 0.4	● アスファルト・フィング 940	○立平葺	● カラーガルバリウム鋼板		○ 改質アスファルト・フィング 下葺材	○蟻掛葺	裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4		○ 一般タイプ	○横葺			○ 複層基材タイプ				○ 粘着層付タイプ	4 外壁改修工事	<p>(4.1.4)</p> <p>(4.4.5)</p> <p>～(4.4.6)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <p>○樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200～300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○樹脂注入法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○手動式注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50～100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○機械式注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100～200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150～250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 抜き個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○タイル部分張替え工法</td> <td>○ポリマーセメントモルタル ○変成シリコン樹脂 ○ウレタン樹脂</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○タイル張替え工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130	○樹脂注入法				○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40	○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70		0.5以上1.0未満	○150～250	○130	工 法	材 料	施 工 箇 所	○タイル部分張替え工法	○ポリマーセメントモルタル ○変成シリコン樹脂 ○ウレタン樹脂		○タイル張替え工法			4 外壁改修工事	<p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○</p> <p>注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <p>注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり</th> <th>長さ変化率</th> <th>引張接着性</th> <th>曲げ性能</th> <th>吸水性</th> <th>耐久性</th> </tr> <tr> <td>速度 (cm/s)</td> <td>(%)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(72時間) (%)</td> <td>(劣化曲げ強さ) (N/mm2)</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以上</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル張替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p>	広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性	速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																											
屋根形状	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料																																																																																																								
●心木なし瓦葺葺	※ JIS G 3322の屋根用（着色有） ● 0.4	● 0.4	● アスファルト・フィング 940																																																																																																								
○立平葺	● カラーガルバリウム鋼板		○ 改質アスファルト・フィング 下葺材																																																																																																								
○蟻掛葺	裏貼：ポリエチレンフォームt=0.4		○ 一般タイプ																																																																																																								
○横葺			○ 複層基材タイプ																																																																																																								
			○ 粘着層付タイプ																																																																																																								
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																								
※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130																																																																																																								
○樹脂注入法																																																																																																											
○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40																																																																																																								
○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70																																																																																																								
	0.5以上1.0未満	○150～250	○130																																																																																																								
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																									
○タイル部分張替え工法	○ポリマーセメントモルタル ○変成シリコン樹脂 ○ウレタン樹脂																																																																																																										
○タイル張替え工法																																																																																																											
広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性																																																																																																						
速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																						
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																						
4 外壁改修工事	<p>1 施工数量調査 (1.6.2)</p> <p>調査範囲 ● 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲</p> <p>調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。</p> <p>モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。</p> <p>コンクリート表面のはがれ及びひびく落部を壁面に表示する。</p> <p>塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びひびく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規塗料との適合性を確認する。</p> <p>既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>調査報告書の部数 ● 2部 ○</p> <p>※施工に先立ち、建築士診断技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。</p>	4 外壁改修工事	<p>3 欠損部改修</p> <p>(4.1.4)</p> <p>(4.2.4)</p> <p>(4.2.7)</p> <p>(4.1.4)</p> <p>(4.3.9)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○充填工法</td> <td>※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○モルタル張替え工法</td> <td>※改修仕様表4.3.3による</td> <td>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</td> </tr> </table> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○充填工法</td> <td>※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○モルタル張替え工法</td> <td>※改修仕様表4.3.3による</td> <td>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</td> </tr> </table> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○タイル部分張替え工法</td> <td>○ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○タイル張替え工法</td> <td>○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table>	工 法	材 料	施 工 箇 所	○充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル		○モルタル張替え工法	※改修仕様表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○	工 法	材 料	施 工 箇 所	○充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル		○モルタル張替え工法	※改修仕様表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○	工 法	材 料	施 工 箇 所	○タイル部分張替え工法	○ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○タイル張替え工法	○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		4 外壁改修工事	<p>5 目地改修工法</p> <p>(4.1.4)</p> <p>(4.4.5)</p> <p>(4.4.16)</p> <p>タイル張り仕上げ ○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法 位置 ※ 改修仕様表4.4.2による ○ 図示による 寸法(幅×深さ) コンクリート打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20mm以上×10mm以上 ○ その他 ※ 10mm以上×10mm以上 ○</p>																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																									
○充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル																																																																																																										
○モルタル張替え工法	※改修仕様表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○																																																																																																									
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																									
○充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル																																																																																																										
○モルタル張替え工法	※改修仕様表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○																																																																																																									
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																									
○タイル部分張替え工法	○ポリマーセメントモルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																										
○タイル張替え工法	○張付けモルタル ○現場調合材料 ○既調合モルタル ○一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																										
4 外壁改修工事	<p>2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.4) (4.2.7) (4.2.7)</p> <p>○コンクリート打放し仕上げ</p> <p>○樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧注入法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200～300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○樹脂注入法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○手動式注入法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50～100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○機械式注入法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100～200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150～250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない（注入状況確認方法） 抜き個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>○ シール工法</p> <p>○ パテ状エポキシ樹脂</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130	○樹脂注入法				○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40	○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70		0.5以上1.0未満	○150～250	○130	4 外壁改修工事	<p>6 樹脂注入工法</p> <p>(4.2.4)</p> <p>(4.2.5)</p> <p>建築補修用注入エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れの幅 (mm)</th> <th>0.2～0.3未満</th> <th>0.3～0.5未満</th> <th>0.5～1.0以下</th> </tr> <tr> <th>注入口の間隔 (mm)</th> <td>200程度</td> <td>300程度</td> <td>300程度</td> </tr> <tr> <th>注入量 (CC/mm)</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○機械式エポキシ樹脂注入工法</p> <p>ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 （抜き個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○） （抜き部分の補修方法 ○）</p>	ひび割れの幅 (mm)	0.2～0.3未満	0.3～0.5未満	0.5～1.0以下	注入口の間隔 (mm)	200程度	300程度	300程度	注入量 (CC/mm)																																																																							
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																								
※自動式低圧注入法	0.2以上1.0未満	※200～300	○130																																																																																																								
○樹脂注入法																																																																																																											
○手動式注入法	0.2以上0.3未満	○50～100	○40																																																																																																								
○機械式注入法	0.3以上0.5未満	○100～200	○70																																																																																																								
	0.5以上1.0未満	○150～250	○130																																																																																																								
ひび割れの幅 (mm)	0.2～0.3未満	0.3～0.5未満	0.5～1.0以下																																																																																																								
注入口の間隔 (mm)	200程度	300程度	300程度																																																																																																								
注入量 (CC/mm)																																																																																																											
4 外壁改修工事	<p>12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p> <p>13 屋根防水改修工事 (カバール工法)</p>	4 外壁改修工事	<p>4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) (4.3.16)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○アンカーピン部分注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン部分注入法</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○</p> <p>注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <p>注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり</th> <th>長さ変化率</th> <th>引張接着性</th> <th>曲げ性能</th> <th>吸水性</th> <th>耐久性</th> </tr> <tr> <td>速度 (cm/s)</td> <td>(%)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(72時間) (%)</td> <td>(劣化曲げ強さ) (N/mm2)</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以上</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル張替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○			○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25			○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○			○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性	速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上	4 外壁改修工事	<p>7 リカットシール材充填工法 (4.2.6)</p> <p>シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○ 行う</p>												
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																						
○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○																																																																																																								
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性																																																																																																						
速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																						
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																						
4 外壁改修工事	<p>12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p> <p>13 屋根防水改修工事 (カバール工法)</p>	4 外壁改修工事	<p>4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) (4.3.16)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○アンカーピン部分注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン部分注入法</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○</p> <p>注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <p>注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり</th> <th>長さ変化率</th> <th>引張接着性</th> <th>曲げ性能</th> <th>吸水性</th> <th>耐久性</th> </tr> <tr> <td>速度 (cm/s)</td> <td>(%)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(72時間) (%)</td> <td>(劣化曲げ強さ) (N/mm2)</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以上</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル張替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○			○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25			○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○			○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性	速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上	4 外壁改修工事	<p>8 アンカーピン注入工法 (4.3.5)</p> <p>アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○</p>												
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																						
○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○																																																																																																								
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性																																																																																																						
速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																						
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																						
4 外壁改修工事	<p>12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p> <p>13 屋根防水改修工事 (カバール工法)</p>	4 外壁改修工事	<p>4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) (4.3.16)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○アンカーピン部分注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン部分注入法</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○</p> <p>注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <p>注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり</th> <th>長さ変化率</th> <th>引張接着性</th> <th>曲げ性能</th> <th>吸水性</th> <th>耐久性</th> </tr> <tr> <td>速度 (cm/s)</td> <td>(%)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(72時間) (%)</td> <td>(劣化曲げ強さ) (N/mm2)</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以上</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル張替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○			○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25			○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○			○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性	速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上	4 外壁改修工事	<p>9 注入口付アンカーピン注入工法 (4.3.5)</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径4mm程度 ○</p>												
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																						
○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○																																																																																																								
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性																																																																																																						
速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																						
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																						
4 外壁改修工事	<p>12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p> <p>13 屋根防水改修工事 (カバール工法)</p>	4 外壁改修工事	<p>4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) (4.3.16)</p> <p>○モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○アンカーピン部分注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※25 ○</td> <td>※25 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○アンカーピン全面注入法</td> <td>※20 ○</td> <td>※20 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン部分注入法</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td></td> <td>※50</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピン全面注入法</td> <td>※16 ○</td> <td>※16 ○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○</p> <p>注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度 ○</p> <p>注入工法用材料 ○ ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり</th> <th>長さ変化率</th> <th>引張接着性</th> <th>曲げ性能</th> <th>吸水性</th> <th>耐久性</th> </tr> <tr> <td>速度 (cm/s)</td> <td>(%)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(材齢28日) (N/mm2)</td> <td>(72時間) (%)</td> <td>(劣化曲げ強さ) (N/mm2)</td> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以上</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>○ 充填工法用材料 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル張替え工法用材料 既製目地材 ○ 使用する（形状） 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○			○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50		○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○		○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25			○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○			○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50		○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○		広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性	速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上	4 外壁改修工事	<p>10 モルタル張替え工法 (4.3.5)</p> <p>モルタル ○ 現場調合材料 ○ 既調合材料 () 既製目地材 ○ 使用する（形状）</p>												
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																						
○アンカーピン部分注入法	※16 ○	※25 ○	※25 ○																																																																																																								
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※25																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※13 ○	※12 ○		※50																																																																																																							
○アンカーピン全面注入法	※20 ○	※20 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン部分注入法	※9 ○		※25																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○		○																																																																																																								
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※25																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※9 ○	※9 ○		※50																																																																																																							
○注入口付アンカーピン全面注入法	※16 ○	※16 ○		○																																																																																																							
広がり	長さ変化率	引張接着性	曲げ性能	吸水性	耐久性																																																																																																						
速度 (cm/s)	(%)	(材齢28日) (N/mm2)	(材齢28日) (N/mm2)	(72時間) (%)	(劣化曲げ強さ) (N/mm2)																																																																																																						
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上																																																																																																						

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																
4 外壁改修工事	<p>11 タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法 (4.4.5) (4.4.7) ~ (4.4.8)</p> <p>12 窓下人研面台の補修</p> <p>13 仕上塗材 (4.1.5) (4.5.2) (4.5.6)</p> <p>14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.5.4) (4.5.5)</p>	4 外壁改修工事	<p>15 マスチック塗材塗り (4.1.5) (4.6.2)</p> <p>16 部分改修工法 (4.5.7)</p> <p>17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.7.2) (4.7.3)</p>	5 建具改修工事	<p>8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)</p> <p>9 樹脂製建具 (5.3.2) ~ (5.3.5)</p> <p>10 鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2) ~ (5.4.4)</p> <p>11 鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.5.2) ~ (5.5.4)</p> <p>12 ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2) ~ (5.6.5)</p>	5 建具改修工事	<p>13 建具用金物 (5.8.2) ~ (5.8.4)</p> <p>14 自動引閉装置 (5.9.2) ~ (5.9.3)</p>																																																																																																																																																
	<p>○ 既調査モルタル ()</p> <p>タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う (施工箇所)</p> <p>タイルの見本焼 ※ 行わない ○ 行う (範囲、仕様は図示による)</p> <p>施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く)</p> <p>浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う</p> <p>接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない</p>		<p>種別 ○ A種 ※ B種 (表4.6.1)</p> <p>仕上げ塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材 ○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材</p> <p>○ 防水形複層仕上塗材 ○ マスチック塗材</p> <p>施工箇所 ○ 別図に示す範囲 ○</p> <p>外壁用塗膜防水塗り</p> <p>仕上げの形状 _____ 工法 _____</p> <p>外壁用仕上げ塗材の耐候性 ○</p> <p>下地挙動緩衝材の適用 ○ 適用する ○ 適用しない</p> <p>吹付け工法の模様材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m²)</p> <p>外壁用仕上げ塗材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m²)</p>		<p>防虫網 網の種類 ※ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製</p> <p>○ ステンレス製 (SUS316)</p> <p>形式 ※ 外部可動式 ○ 固定式</p> <p>線径、網目 ※ 0.25mm以上、16~18メッシュ ○ _____</p> <p>防鳥網 ○ 設置する</p> <p>外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>性能等級</td> <td>○ A種</td> <td>○ B種</td> <td>○ C種</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-4 ○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td>※ W-5 ○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>特見込み (mm)</td> <td>※ 図示</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ _____)</p> <p>○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-4 ○ H-5 ○ H-6 ○ H-7 ○ H-8)</p> <p>ガラス ※ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス ○ _____</p> <p>表面色 ○ 標準色 ○ 特注色</p> <p>水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ _____</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ○ _____</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性能の等級 (○ _____) (表5.2.1)</p> <p>簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1)</p> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____)</p> <p>○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____)</p> <p>○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 _____)</p> <p>JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修仕様による)</p> <p>※ 製造所標準製作規定寸法許容差による</p> <p>鋼板類の厚さ ※ 表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)</p> <p>_____ mm</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ○ _____</p> <p>標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※ 建具表による</p> <p>JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修仕様による)</p> <p>※ 製造所標準製作規定寸法許容差による</p> <p>鋼板類の厚さ ※ 表5.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)</p> <p>_____ mm</p> <p>召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板 ○ _____</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ○ _____</p> <p>標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※ 建具表による</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性能の等級 (○ _____) (表5.2.1)</p> <p>簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1)</p> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3)</p> <p>○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3)</p> <p>○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 ○ D-1 ○ D-2)</p> <p>ステンレス鋼板の種類 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ _____</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ○ _____</p> <p>JISただし書き建具の寸法許容差</p> <p>※ 製造所標準製作規定寸法許容差による</p> <p>表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面仕上げ</p> <p>曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ</p>	性能等級	○ A種	○ B種	○ C種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-4 ○	○	○	水密性	※ W-4 ○	※ W-5 ○	○	特見込み (mm)	※ 図示	○	○		<p>マスターキーの製作</p> <p>※ 作成する (_____ グループ、各グループ _____ 個) ○ 作成しない</p> <p>○ 在来マスターキーに合わせる</p> <p>鍵の制作本数 ※ 3本1組 (室名札付き) ○ _____</p> <p>鍵箱 ※ 無 ○ 有</p> <p>開き戸 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ シリンダー錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td>実用性能項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シリンダーキー: ステンレス</td> <td>※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 本締り錠</td> <td>シリンダーキー: ステンレス</td> <td>実用性能項目</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 空錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ グレモン錠</td> <td>レバーハンドル: 亜鉛合金 (○ ステンレス)</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>ケースハンドル錠</td> <td>ステンレス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>点検口錠</td> <td>亜鉛合金程度 (○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丁番</td> <td>ステンレス、(○ 黄銅)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ビボットヒンジ</td> <td>カバー部: ステンレス (○ 亜鉛合金)</td> <td>亜鉛合金は木製建具用のみ</td> </tr> <tr> <td>点検口輪吊りヒンジ</td> <td>建具製作所の仕様による</td> <td>○ 自閉装置付き</td> </tr> <tr> <td>○ フロアヒンジ</td> <td>カバー部: ステンレス (本体は鋼)</td> <td>ドアクローザー</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジカバー(丁番型)</td> <td>鋼 (焼付け塗装)</td> <td>○ 遅延閉り機能付き</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジカバー(ヒンジ型)</td> <td>カバー部: ステンレス (本体は鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ドアクローザー</td> <td>本体: 7Mn2CrAl合金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>7Mn2CrAl、鋼 (焼付け塗装)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>閉鎖順位調整器</td> <td>ステンレス、(○ 鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 押棒・押板</td> <td>(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>上げ落し (フランス落し)</td> <td>亜鉛合金程度 (○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 7Mn2CrAl</td> <td>鋼 (加めつき) (○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸当り</td> <td>亜鉛合金程度 (○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td>○ あり止め付き</td> </tr> </tbody> </table> <p>引戸 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引戸用錠</td> <td></td> <td>木製建具の場合: シリンダーキー等はステンレス</td> </tr> <tr> <td>○ クレセント</td> <td>建具製作所の仕様による。</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>引手類</td> <td></td> <td>木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)</td> </tr> <tr> <td>戸車 (上吊りの場合を除く)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レール (上吊りの場合を除く)</td> <td>ステンレス (○ 7Mn2CrAl合金 ○ 黄銅)</td> <td>黄銅は木製建具用のみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>窓 (表5.8.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クレセント・調整器・ヒンジ等</td> <td>建具製作所の仕様による。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>金属製建具用丁番 ※ 表 5.8.2による ○ _____</p> <p>樹脂製建具用丁番 ※ 表 5.8.3による ○ _____</p> <p>駆動装置及び検出装置の性能 (5.9.2) ~ (5.9.3)</p> <p>○ 引き戸用駆動装置性能値</p> <p>※ 改修仕様 表5.9.1による (○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2)</p> <table border="1"> <tr> <td>種類・開閉方式</td> <td>耐電圧</td> <td>温度上昇</td> <td>耐久性(サイクル)</td> <td>防錆</td> <td>電源</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値</p> <p>※ 改修仕様 表5.9.2による</p> <table border="1"> <tr> <td>耐電圧</td> <td>温度上昇</td> <td>耐久性(サイクル)</td> <td>防錆</td> <td>電源</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	○ シリンダー錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()		○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	実用性能項目		シリンダーキー: ステンレス	※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)			○ 耐じん性能のグレード ○	○ 本締り錠	シリンダーキー: ステンレス	実用性能項目			※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)			○ 耐じん性能のグレード ○	○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()		○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)		○ グレモン錠	レバーハンドル: 亜鉛合金 (○ ステンレス)	○ 取付位置 ()	ケースハンドル錠	ステンレス		点検口錠	亜鉛合金程度 (○ ステンレス)		丁番	ステンレス、(○ 黄銅)		○ ビボットヒンジ	カバー部: ステンレス (○ 亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ	点検口輪吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き	○ フロアヒンジ	カバー部: ステンレス (本体は鋼)	ドアクローザー	○ ヒンジカバー(丁番型)	鋼 (焼付け塗装)	○ 遅延閉り機能付き	○ ヒンジカバー(ヒンジ型)	カバー部: ステンレス (本体は鋼)		○ ドアクローザー	本体: 7Mn2CrAl合金			7Mn2CrAl、鋼 (焼付け塗装)		閉鎖順位調整器	ステンレス、(○ 鋼)		○ 押棒・押板	(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)	○ 取付位置 ()	上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度 (○ ステンレス)		○ 7Mn2CrAl	鋼 (加めつき) (○ ステンレス)		戸当り	亜鉛合金程度 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ あり止め付き	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	引戸用錠		木製建具の場合: シリンダーキー等はステンレス	○ クレセント	建具製作所の仕様による。	○ 取付位置 ()	引手類		木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)	戸車 (上吊りの場合を除く)			レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス (○ 7Mn2CrAl合金 ○ 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	クレセント・調整器・ヒンジ等	建具製作所の仕様による。		種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源							耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源					
性能等級	○ A種	○ B種	○ C種																																																																																																																																																				
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																																																																																																																																				
気密性	※ A-4 ○	○	○																																																																																																																																																				
水密性	※ W-4 ○	※ W-5 ○	○																																																																																																																																																				
特見込み (mm)	※ 図示	○	○																																																																																																																																																				
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																					
○ シリンダー錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()																																																																																																																																																					
	○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	実用性能項目																																																																																																																																																					
	シリンダーキー: ステンレス	※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)																																																																																																																																																					
		○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																																					
○ 本締り錠	シリンダーキー: ステンレス	実用性能項目																																																																																																																																																					
		※ グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具)																																																																																																																																																					
		○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																																					
○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス	○ 取付位置 ()																																																																																																																																																					
	○ レバーハンドル: 7Mn2CrAl合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)																																																																																																																																																						
○ グレモン錠	レバーハンドル: 亜鉛合金 (○ ステンレス)	○ 取付位置 ()																																																																																																																																																					
ケースハンドル錠	ステンレス																																																																																																																																																						
点検口錠	亜鉛合金程度 (○ ステンレス)																																																																																																																																																						
丁番	ステンレス、(○ 黄銅)																																																																																																																																																						
○ ビボットヒンジ	カバー部: ステンレス (○ 亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ																																																																																																																																																					
点検口輪吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き																																																																																																																																																					
○ フロアヒンジ	カバー部: ステンレス (本体は鋼)	ドアクローザー																																																																																																																																																					
○ ヒンジカバー(丁番型)	鋼 (焼付け塗装)	○ 遅延閉り機能付き																																																																																																																																																					
○ ヒンジカバー(ヒンジ型)	カバー部: ステンレス (本体は鋼)																																																																																																																																																						
○ ドアクローザー	本体: 7Mn2CrAl合金																																																																																																																																																						
	7Mn2CrAl、鋼 (焼付け塗装)																																																																																																																																																						
閉鎖順位調整器	ステンレス、(○ 鋼)																																																																																																																																																						
○ 押棒・押板	(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)	○ 取付位置 ()																																																																																																																																																					
上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度 (○ ステンレス)																																																																																																																																																						
○ 7Mn2CrAl	鋼 (加めつき) (○ ステンレス)																																																																																																																																																						
戸当り	亜鉛合金程度 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ あり止め付き																																																																																																																																																					
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																					
引戸用錠		木製建具の場合: シリンダーキー等はステンレス																																																																																																																																																					
○ クレセント	建具製作所の仕様による。	○ 取付位置 ()																																																																																																																																																					
引手類		木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)																																																																																																																																																					
戸車 (上吊りの場合を除く)																																																																																																																																																							
レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス (○ 7Mn2CrAl合金 ○ 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ																																																																																																																																																					
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																																																																					
クレセント・調整器・ヒンジ等	建具製作所の仕様による。																																																																																																																																																						
種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																		
耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																																																																			
	<p>○ 可とう形改修塗材 E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 R E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 C E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 R E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 C E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 R E</p> <p>○ 可とう形改修塗材 C E</p>		<p>1 性能 ※ 「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。</p> <p>2 施工数量調査 (1.6.2) ※ 行う (○ 建具金物 ○ ガラス ○ ガラス止め材 ○ _____) ※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない</p> <p>3 改修工法 (5.1.3) 既存建具を新規建具に改修する場合 ※ かぶせ工法 (○ カバー工法 ○ 持出し工法 ○ ノンシール工法) ○ 撤去工法 (○ はつり工法 ○ 引き抜き工法) 新規に建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開口方法 ※ 図示による ○ _____ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示による ○ _____</p> <p>4 防火戸 (5.1.4) ※ 図示による ○ _____ 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ○ 連動させる (※ 建具表による ○ _____) ○ 連動させない</p> <p>5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6) 建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 _____) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 _____) ○ プラインドボックス等の再使用 (_____)</p> <p>6 防犯建物部品 (5.1.7) 開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドア 適用箇所 (_____) ・ サッシ 適用箇所 (_____) ・ シャッター 適用箇所 (_____) <p>外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>性能等級</td> <td>○ A種</td> <td>○ B種</td> <td>○ C種</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-3 ○</td> <td>○</td> <td>※ A-4 ○</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td>○</td> <td>※ W-5 ○</td> </tr> <tr> <td>特見込み (mm)</td> <td>※ 図示</td> <td>○ 70</td> <td>○ 100</td> </tr> </table> <p>表面処理 (表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>色</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ BB-1種</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○ BB-2種</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____)</p> <p>○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____)</p> <p>結露水の処理方法 ○ 水貯め式 ○ 排水式 ※ 図示による ○ _____</p> <p>水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ _____</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL ○ _____</p>	性能等級	○ A種	○ B種	○ C種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-3 ○	○	※ A-4 ○	水密性	※ W-4 ○	○	※ W-5 ○	特見込み (mm)	※ 図示	○ 70	○ 100	種 別	色	施 工 箇 所	○ BB-1種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○	○ BB-2種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○	○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																															
性能等級	○ A種	○ B種	○ C種																																																																																																																																																				
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																																																																																																																																				
気密性	※ A-3 ○	○	※ A-4 ○																																																																																																																																																				
水密性	※ W-4 ○	○	※ W-5 ○																																																																																																																																																				
特見込み (mm)	※ 図示	○ 70	○ 100																																																																																																																																																				
種 別	色	施 工 箇 所																																																																																																																																																					
○ BB-1種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○																																																																																																																																																					
○ BB-2種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○																																																																																																																																																					
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																																						
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																																						
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																																						

章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項 章 項 目 特 記 事 項

6 内装改修工事

パーティクルボード

使用箇所	厚さ	各種区分
	※15mm ○	※13Pタイプ又は13Mタイプ ○

JAS 0360 に基づく構造用パネル

使用箇所	等級	厚さ

MDF

使用箇所	厚さ	表面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

造作材化粧面の釘打ち
※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘打ち ○ 釘頭現し

諸金物の形状、寸法及び材質
※かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.3から表6.5.5までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表8.20.1 [鉄鋼の垂鉛めっきの種類] のF種程度の垂鉛めっきを施したものを ○

○ 防蟻・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位 _____
○ 薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理
適用部位 保存処理性能区分
○ K2 ○ K3 ○ K4
○ K2 ○ K3 ○ K4

○ 薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理
適用部位 処理の方法 薬剤の種類
※ 薬剤の製造所の仕様による ※ JIS K 15711に適合又は同等品
○ ○

○ 薬剤の接着剤への混入による防蟻・防蟻処理 適用部位 _____
○ 合板等の加圧注入処理等の適用 適用部位 _____

防虫処理 ※ 行う (範囲 ラワン材等 ※ 製材の日本農林規格)による保存処理 K1
○ 行わない

6 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2) ~ (6.6.4)

野縁等の種類 屋内 ※ 19型 ○ 25型 (表6.6.1)
屋外 ○ 19型 ※ 25型

野縁受け・つりボルト・インサートの間隔 _____ mm
周辺部の端からの寸法 _____ mm
野縁の間隔 _____ mm
はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し
既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する
あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う (_____箇所以上、 _____箇所)
○ 行わない

開口補強
つりボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ _____
天井のふところの補強
(1.5m以上3m以下) ※ 改修標準6.6.4(8)による ○ _____
(3mを超える) ※ 図示による ○ _____
天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない

7 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)

スタッド、ランナ等の種類 (表6.7.1)
※ 表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ _____
スタッドの高さが5mを超える場合
※ 図示による ○ _____

8 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)

区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	工 法	施工箇所
発泡層無	○ 単層ビニル床シート	TS				
	※ 複層ビニル床シート	FS	○ 2.5	※ 無地	※ 熱溶接	※ 仕上表による
発泡層有	○ 発泡複層ビニル床シート	HS	○ 2.0	○ マーブル	○	
	○ クッションフロア	KS		○ 柄物		

6 内装改修工事

○ ビニル床タイル

区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	寸 法	施工箇所
接合形状	※ コボ「ジョイント」床タイル	KT	※ 2.0 ○ 3.0	○ 無地 ○ 柄物	○ 300×300 ○ 450×450	
	○ 単層ビニル床タイル	TT	○ 2.0 ○			
置敷形状	○ 複層ビニル床タイル	FT	○ 2.0 ○ 2.5 ○ 3.0		○ 600×500	
	○ 置敷きビニル床タイル	FOA	○ 4.0 ○			
置敷形状	○ 薄型置敷きビニル床タイル	FOB	○		○	

○ 帯電防止床シート ○ 帯電防止タイル

種 類	性 能	厚 さ (mm)
○	※ 体積抵抗値 1.0×10 ⁹ Ω以下	
○		

○ 視覚障害者用床タイル

種 類	形 状	備 考
○ 塩化ビニル系	※ 300mm角	
○ レジンコンクリート系	○ 150mm角	
○ 磁器又はせつ器質タイル	○	

○ 耐動荷重性床シート

種 類	厚 さ (mm)	備 考
○		
○		

○ 防滑性床シート ○ 防滑性床タイル

種 類	寸 法	厚 さ (mm)
○		
○		

○ ビニル幅木

種 類	厚 さ (mm)	厚 さ (mm)
○ 軟質 ○ 硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100	○ ※ 1.5 ○ 2.0

○ ゴム床タイル張り

色 柄	種 類	厚 さ (mm)	寸 法 (mm)
	○ 単層品 ○ 積層品		

○ 織じゅうたん

種 別	織り方	パイル形状	帯電性	色 柄	接合方法	施 工 箇 所
○ A種			○ 通用	※ 無地	※ 「トド」工法	
○ B種				○	○ つづり縫い	
○ C種						

○ タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工 法	帯電性	施 工 箇 所
		○ 「リッパ」工法 ○ 全面接着工法		

○ タイルカーペット

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施 工 箇 所
※ 一種	※ ループパイル	※ 500×500	※ 6.5	
○ 二種		○	○	

タイルカーペットの敷き方 平場部分 ※ 市松敷き ○ _____
階段部分 ※ 模様流し ○ _____
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
下敷き材 ※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種2号 呼び厚さ8mm ○ _____
見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※ 図示による ○ _____

厚膜型塗床材
○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ
塗厚 (mm) _____
○ エポキシ樹脂系塗床材
※ 薄膜流しのべ工法 (○ 平滑 ○ 防滑)
○ 厚膜流しのべ工法 (○ 平滑 ○ 防滑)
○ 樹脂モルタル工法 (○ 平滑 ○ 防滑)

薄膜型塗床材
○ エポキシ樹脂系塗床材
塗床材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

9 カーベツト敷き (6.9.2) ~ (6.9.3)

○ 織じゅうたん

10 合成樹脂塗床 (6.10.2) (6.10.3)

6 内装改修工事

11 フローリング張り (6.11.2) ~ (6.11.6)

フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準6.11.2(2)による
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

単層フローリング (表6.11.1)~(表6.11.6)

種 類	樹 種	厚 さ (mm)	大 き さ	工 法	備 考
○ フロ-リソク	※ なら	○		釘留め工法	
ボ-ド1等	○	○ 15	○ 表6.11.1	○ 根太張り工法	
		○ 12	○ 表6.11.3	○ 直張り工法	
		○ 8	○ 表6.11.5	○ 接着工法	
○ フロ-リソク	※ なら	○ 8		○ 接着工法	○ 防水処理足金物付
ボ-ド1等	○	○ 15			
		○			

複合フローリング

種 類	樹 種	厚 さ (mm)	工 法	種 別	備 考
○ 1×6タイプ		○ 8	釘留め工法	○ A種	
○ フロ-リソク	※ なら	○ 15	○ 根太張り工法	○ B種	
				○ C種	
ボ-ドタイプ	○	○	○ 直張り工法	○ B種	
				○ C種	
○			○ 接着工法		

接着工法のフローリング裏面の不陸緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ○ _____

仕上げ塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス塗り (1液形) B種
○ オイルステインの上ワックス塗り ○ 生地そのままワックス塗り ○

12 畳敷き (6.12.2)

種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 (KT-____)
衝撃緩和型畳 (畳表: ○ C1 ○ C2)

13 せつこうボード、その他ボード、及び合板張り (6.13.2) (6.13.3)

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
合板のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準6.13.2(2)の(a)~(d)のいずれか ※ F☆☆☆☆ ○ _____
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
表面への化粧張り等の加工 ※ 図示による ○ _____

種別 ※ 表6.13.1によるJIS規格品とする (表6.13.1)

種 類	規 格、厚 さ (mm) 等
○ せつこうボード (GB-R)	※ 12.5(不燃) ○ 9.5(準不燃)
○ 化粧せつこうボード (GB-D)	○ 杉根模様 ○ 12.5(不燃) ○ トラバーチン模様 (軽鉄下地は専用のものとする)
○ 不燃種層せつこうボード (GB-NC)	○ トラバーチン模様 ※ 9.5(不燃) ○ 模様なし
○ シーシングせつこうボード (GB-S)	○ 15(不燃) ○ 12.5(準不燃) ※ 9.5(準不燃)
○ 強化せつこうボード (GB-F)	○ 21(不燃) ○ 15(不燃) ○ 12.5(不燃)
○ ロックウール吸音ボード (RW-B)	※ 25 ○
○ グラスウール吸音ボード (GW-B)	※ 25 ○
○ 吸音あふせつこうボード (GB-PP)	○ 9.5(準不燃)
○ ロックウール化粧吸音ボード (DR)	内部用 フラット ○ 12(不燃) ※ 9(不燃)
	立体模様 ○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
	鮮天用 フラット ○ 12(不燃) ※ 9(不燃) 立体模様 ○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
○ けい酸カルシウム板 (0.8FK)	タイプ2 (無石綿) ○ 8.0 ○ 6.0 ○
○ メカミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による ※ 1.2
○ 輝態木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15
○ 新態木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15
○ 火山性ガラス質被層板	○ 研磨品 (○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○ 〇)
	○ 無研磨品 (○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○ 〇)
○ 普通合板	厚さ 接着の程度 表板樹種
	板面の品質 防虫処理○行う
○ 天然木化粧合板	厚さ 接着の程度
	化粧板樹種 ○ なら ○ しおじ 防虫処理○行う
○ 特殊加工化粧合板	厚さ 接着の程度 化粧加工の方法
	表面性能 ○ F ○ FW ○ W ○ WS 防虫処理○行う
○ その他下張り用合板	

合板類の張付け (表6.13.3)
○ A種 ○ B種
せつこうボードの目地処理 (表6.13.5)
○ 継目処理 ○ 突付け ○ 目透かし
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類 (表6.13.5)
○ ベベルエッジ ○ スクエアエッジ

6 内装改修工事

14 壁紙張り (6.14.2) (6.14.3)

防火性能・種類・規格・施工箇所 ※ 図示による ○ 下表による

施 行 箇 所	防火性能	品 質 ・ 規 格

素地ごしらえ モルタル及びせつこうプラスター面 ○ A種 ※ B種 (表7.2.4)
コンクリート面 ○ A種 ※ B種 (表7.2.5)
せつこうボード面及びその他のボード面 ○ A種 ※ B種 (表7.2.7)

材質 ○ アルミニウム製 ○ 塩化ビニル製

15 天井廻り縁

16 モルタル塗り (6.15.2) ~ (6.15.6)

モルタル ○ 現場調合材料
○ 既調合材料 (_____)
既製目地材
○ 設ける (形状 _____)
床目地 ○ 設ける ○ 設けない
目地の種類 ※ 押目地 ○ _____
目地割り ※ 2m程度 ○ _____
最大目地間隔 ※ 3m程度 ○ _____

17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.4)

伸縮調整目地等 床面 ※ 縦・横とも4m以内ごと ○ _____
壁面 ※ 図示による ○ _____
タイルの試験張り ○ 行わない ○ 行う
タイルの見本鏡 ○ 行わない ○ 行う
施工後の確認及び試験
浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験 ※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない

タイルの種類

施工箇所・形状・パイルの種類	寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性	耐滑り性	役物	色	工法	その他
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せつ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注		
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せつ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注		
		○ 磁器 ○ 陶器 ○ せつ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注		

壁タイル張りの工法
内装タイル
○ 密着張り ○ 改良接着張り
内装タイル以外のユニットタイル
○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
内装タイル接着張りの有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
○ 既調合モルタル
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理 ○ 目荒し工法 ○ _____

18 セルフレベリング材塗り (6.17.2) ~ (6.17.3)

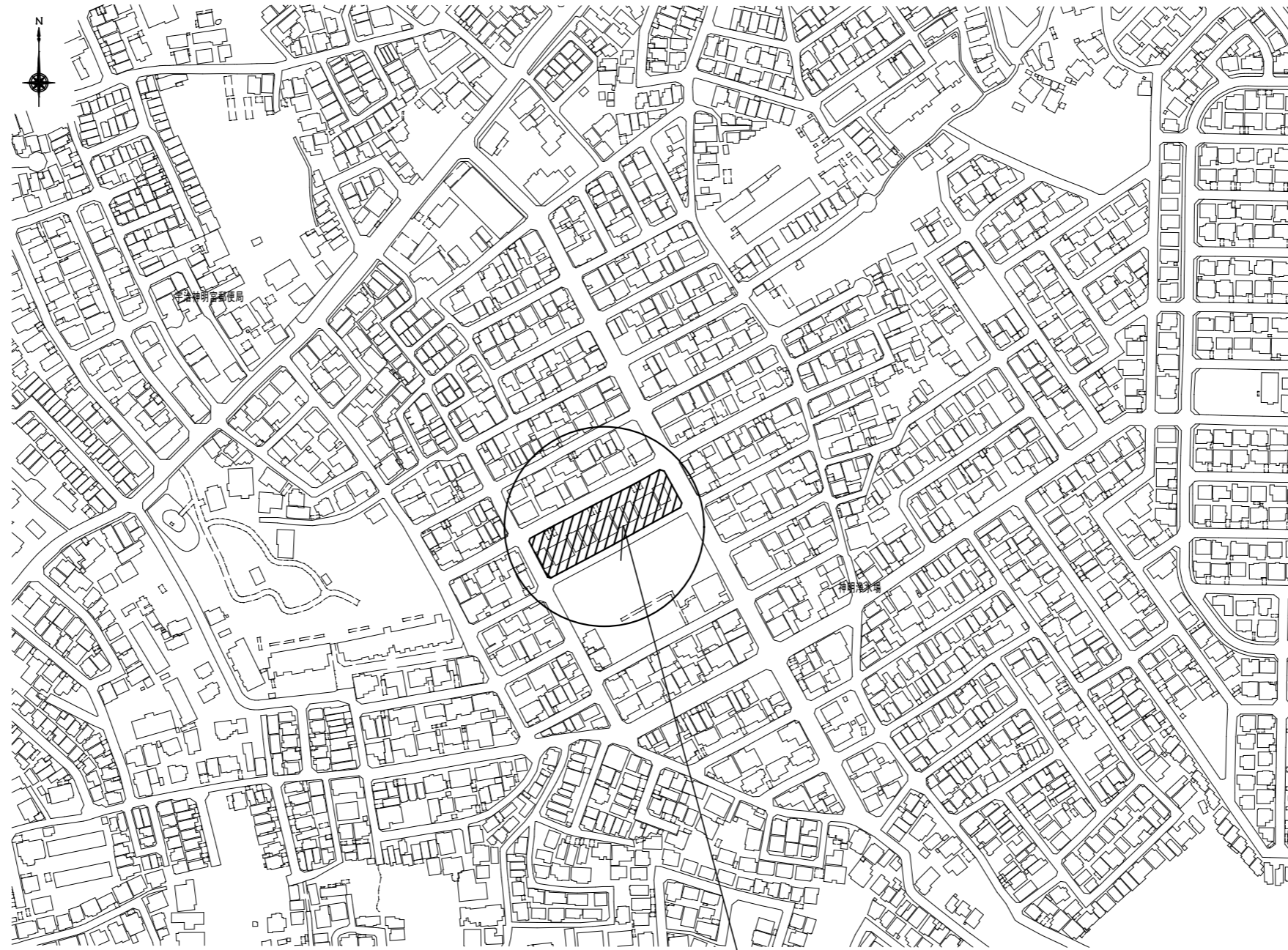
① 塗装材料 (7.1.3)
② 下地調整 (7.2.1) ~ (7.2.7)

塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____


塗替えで下地調整の種類がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ○ 図示 ○ _____ (表7.2.1)~(表7.2.7)

素 地	種 別	備 考
木部	○ RA種	
	※ 不透明塗料塗りの場合はRB種 ○ RC種	
鉄鋼面	○ RA種 ※ RB種	
	○ RC種	
垂鉛めっき鋼面	○ RA種 ※ RB種	
	○ RC種	
モルタル及びせつこうボード面	○ RA種 ※ RB種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
	○ RC種	
コンクリート面及びALCパネル面	○ RA種 ※ RB種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
	○ RC種	
コンクリート面及び押出成形セメント面	○ RA種 ○ RB種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
	○ RC種	
せつこうボード及びその他「ド」面	○ RA種 ※ RB種	
	○ RC種	

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	
7 塗装改修工事	3 素地ごしらえ (7.3.2) ~ (7.3.7)	(表7.3.2) ~ (表7.3.7) 種別 下地面等 木部 鉄鋼面 (DP以外) 鉄鋼面 (DP) 亜鉛めっき鋼面 珪酸塩面及びセッコウガラス面 (DP) コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面 押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP) コンクリート面 (DPのみ) せっこうボード面及び その他のボード面	8-1-1 耐震補強工事 (鉄筋工事)	1 鉄筋の種類 (8.2.1) 異形鉄筋 種類記号 径 (mm) 備考 ※SD295はFc:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する	8-1-2 耐震補強工事 (コンクリート工事)	10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2) コンクリートの種類 設計基準強度 スラブ セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントB種 ○フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ○図示による ()	コンクリートの種類 ※普通コンクリート ○ 設計基準強度 ※18N/mm2 ○ スラブ ※15cm又は18cm ○ セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントB種 ○フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ○図示による ()	
	4 錆止め塗料塗り (7.4.2) (7.4.3)	錆止め塗料の種類 素地面 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	2 溶接金網 (8.2.2) 3 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3) 4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	2 溶接金網 (8.2.2) 網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm) 3 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3) 部 位 接 合 方 法 径 (mm) ○ 重ね継手 ○ ガス圧接継手 D19以上 ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 ○ 重ね継手 ○ ガス圧接継手 D16以下 ○ 機械式継手 ○ 溶接継手 ○ 機械式継手 適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき ※構造図による 施工完了後の継手部の試験 ※行う ○行わない 不合格となった継手部への措置等 ※監督職員と協議する ○ 溶接継手 適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき ※構造図による 溶接完了後の溶接部の試験 ※行う ○行わない 不合格となった溶接部への措置等 ※監督職員と協議する ○ 柱及び梁の主筋並びに耐力型の鉄筋の重ね継手の長さ ※構造図による ○ 鉄筋継手位置 ※構造図による ○表8.3.3による ○ 鉄筋の定着長さ ※構造図による ○表8.3.4による ○ 機械式定着工法 適用箇所、種類 ※構造図による ○ 帯筋組立の形、継手及び定着 ※構造図による	3 構造体強度補正值 (8.2.5) ※気温による構造体強度補正值 (S) (表8.2.4) 予想平均気温 (℃) 補正值 期 間 (打 設 日) 普通 早強 (S) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/31 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm2 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/ 6 ~ 3/10 11/ 1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm2 南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧田原町以南の南町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)	4 構造体用モルタル (8.2.6) モルタル圧縮強度 フロー値 5 型枠 (せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8) 合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 合板の材質 ※広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) ※ 12 ○ 打放し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表8.1.4) 種 別 板 面 の 品 質 施 工 箇 所 ○ A種 ※8.2.7(2)(7) ○ ○ B種 ※8.2.7(2)(4) ○ ○ C種 ※8.2.7(2)(4) ○ ○合板せき板を用いない場合 せき板の材質 コンクリートの仕上げの平らさ 種 別 適 用 箇 所 ○ a種 ○ b種 ○ c種 スリーブの材質 (表8.2.6) 適 用 箇 所 材 種 (規 格 そ の 他) 水密を要する地中部分等 ※つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6 mm以上、 つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの) 水密を要しない地中部分等 ※硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU) 上記以外の円形スリーブ ※溶融亜鉛めっき鋼板 (径200 mm以下は厚0.4 mm 以上、径200 mmを超え350 mm以下は厚0.6 mm以上) ○ 円形スリーブ (溶融亜鉛めっき鋼板) は、筒形の両側を外型に折り曲げてつばを設ける。 硬質ポリ塩化ビニル管は、防災区画を貫通する場合には使用しない。 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※図示による ○ 20mm シアコネクターとセパレーターの兼用 ○ 可 ○ 不可	11 コンクリート特車の過積載防止対策等 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。	
	5 塗装工程 (7.5.2) ~ (7.13.2)	工程の種類 (表7.5.1) ~ (表7.13.1) 記 号 名 称 種 別 SOP 合成樹脂調合ペイント塗り 種類 ※1種 ○ CL 珪酸塩系塗り ※ フッ素樹脂屋根用遮熱塗料 NAD 7カド樹脂系非水分散形塗料 DP 耐候性塗料塗り EP-G つや有合成樹脂珪酸塩ペイント塗り E P 合成樹脂珪酸塩ペイント塗り UC 珪酸塩樹脂ニス塗り W P 木材保護塗料塗り	5 圧接完了後の試験 (8.3.8) 6 割裂線強筋 (8.21.6) (8.22.7) 形状 ○ スパイラル筋 ○ 種類記号 ○ SR235 または SWM-P ○ 呼び径、曲げ直径、ピッチ ○ 図示による () ○	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2) コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類 ○ 普通コンクリート 打 設 部 位 Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○ ○ 軽量コンクリート 打 設 部 位 (適 用 箇 所) Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 ○ 21 ○ ※ 21 ○ ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc + 構造体強度補正值 (S)] N/mm2 (標仕6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5) 2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6) 3 鋼材の種類 (8.2.8) 4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7) ○ 監督職員の承諾する工場 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (O S O H O M O R O J) グレード以上 ○ 適用する ○ 適用しない 種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101 SM400A JIS G 3106 SN400A JIS G 3136 ※ 図示による ボルトの種類 ○ トルシア高力ボルト (建築基準法の認定品) ○ J I S高力ボルト (J I S B 1186) 2種 (F10T) ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (建築基準法の認定品、1種 (F8T)) ねじの呼び 呼び係数試験対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する ○ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○ J I S高力ボルトの本締め、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量			
			1 鉄骨の種類 (8.2.1) 異形鉄筋 種類記号 径 (mm) 備考 ※SD295はFc:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2) コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類 ○ 普通コンクリート 打 設 部 位 Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○ ○ 軽量コンクリート 打 設 部 位 (適 用 箇 所) Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 ○ 21 ○ ※ 21 ○ ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc + 構造体強度補正值 (S)] N/mm2 (標仕6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5) 7 軽量コンクリート (8.9.1) 8 暑中コンクリート (8.10.2) 9 寒中コンクリート	8-1-3 耐震補強工事 (あと施工アンカー工事)	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4) 2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7) 3 鉄骨の製作工場 (8.1.5) 4 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6) 5 鋼材の種類 (8.2.8) 6 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	○ 金属系アンカー 引張耐力 _____ せん断耐力 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ セット方式 ※ 本体打込み式改良型 ○ 接合筋 種類 _____ 長さ _____ 径 _____ ○ 接着系アンカー 引張耐力 _____ せん断耐力 _____ 種類 ※ カブセル型回転・打撃式 ○ アンカー筋 ※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼 種類 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ 新設壁内への定着長さ _____ 埋め込み配管等の探査 範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て 方法 ※ 鉄筋探知機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に 墨出しを行う。 ○ 図示による 性能確認試験 ○ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 _____) ○ 行わない 1 ロット ※ 1日に施工されたものの径及び仕様ごと ○ 試験の箇所数 ※ 1ロットに対し3本、無作為に抜き取る ○
			1 鉄筋の種類 (8.2.1) 異形鉄筋 種類記号 径 (mm) 備考 ※SD295はFc:21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2) コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類 ○ 普通コンクリート 打 設 部 位 Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○ ○ 軽量コンクリート 打 設 部 位 (適 用 箇 所) Fc (N/mm2) スラブ (cm) 備 考 ○ 21 ○ ※ 21 ○ ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc + 構造体強度補正值 (S)] N/mm2 (標仕6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)	6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5) 7 軽量コンクリート (8.9.1) 8 暑中コンクリート (8.10.2) 9 寒中コンクリート	8-1-3 耐震補強工事 (あと施工アンカー工事)	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4) 2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7) 3 鉄骨の製作工場 (8.1.5) 4 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.6) 5 鋼材の種類 (8.2.8) 6 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	○ 金属系アンカー 引張耐力 _____ せん断耐力 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ セット方式 ※ 本体打込み式改良型 ○ 接合筋 種類 _____ 長さ _____ 径 _____ ○ 接着系アンカー 引張耐力 _____ せん断耐力 _____ 種類 ※ カブセル型回転・打撃式 ○ アンカー筋 ※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼 種類 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ 新設壁内への定着長さ _____ 埋め込み配管等の探査 範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て 方法 ※ 鉄筋探知機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に 墨出しを行う。 ○ 図示による 性能確認試験 ○ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 _____) ○ 行わない 1 ロット ※ 1日に施工されたものの径及び仕様ごと ○ 試験の箇所数 ※ 1ロットに対し3本、無作為に抜き取る ○



工事場所

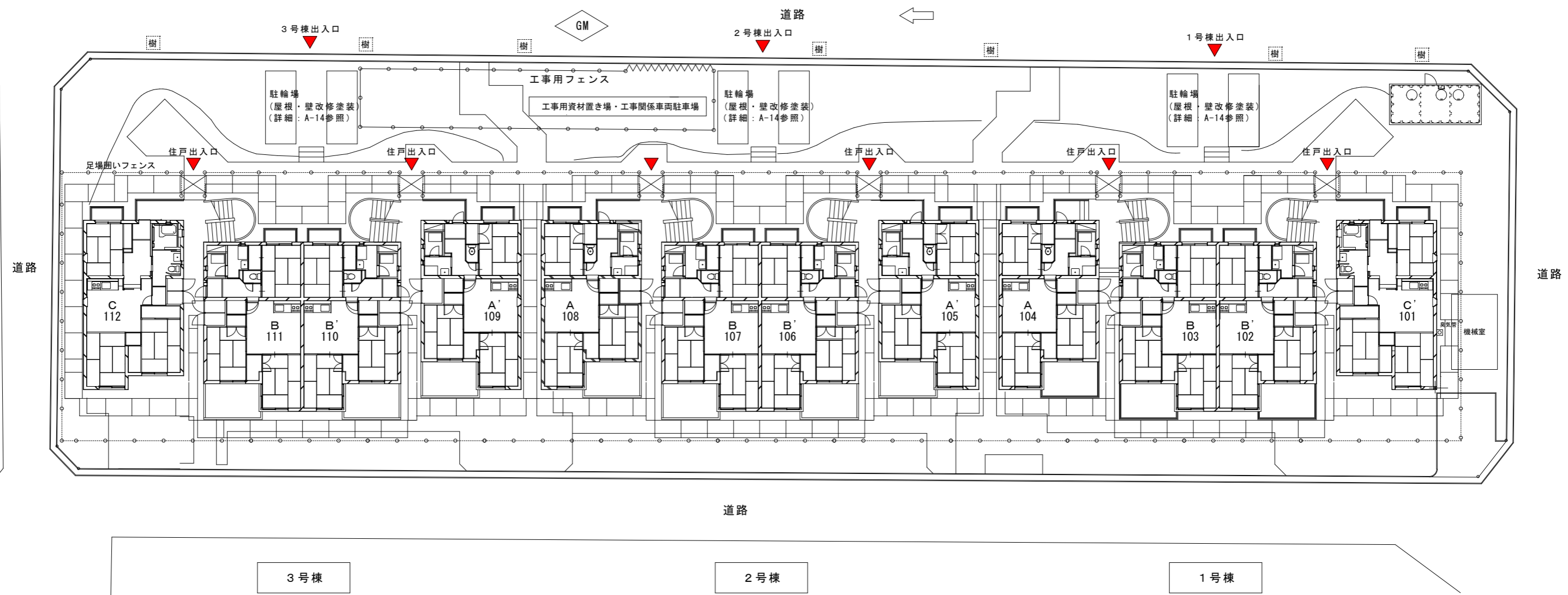
	 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040	所長	主任	担当	工事名	神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事	縮尺 1/2500	SHEET A-07	年月日 R8.5
					図面名	付近見取図			

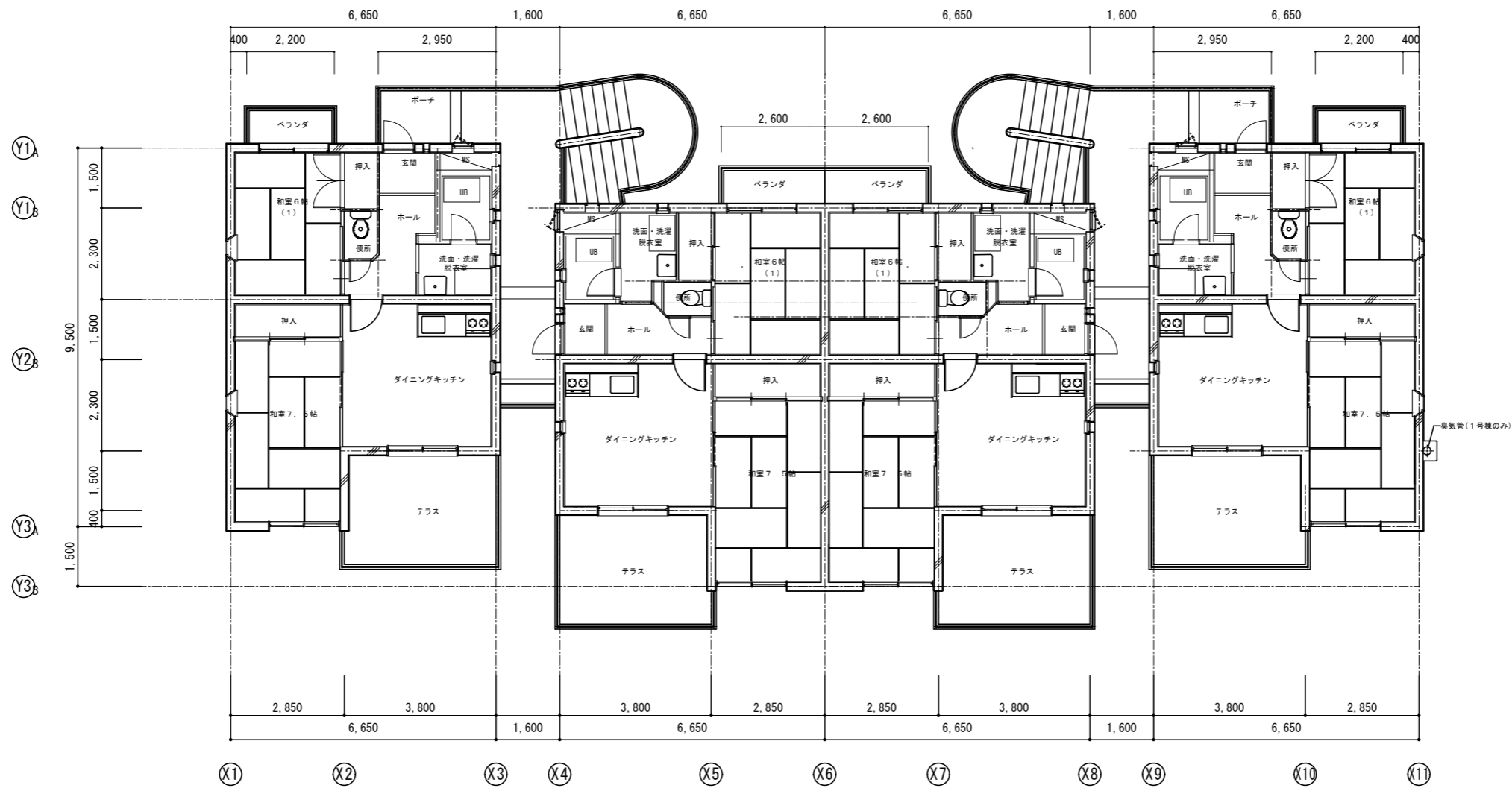


凡例・特記事項	
◇ GM	交通誘導員の配備位置を示す。(作業中適宜移動) 大型重機による進入及び作業を行う場合は、必要に応じて増員する
→	工事用車両進入路を示す
—○—	仮囲 フェンスバリケード+養生シート張 H 1800 (下部幅木板設置)
—○—	敷地北側 工事期間中/全体仮囲い L=50m
—○—	足場囲い 屋根改修時/棟別仮囲い L=230m
〰〰〰	シャッターゲート W=6m

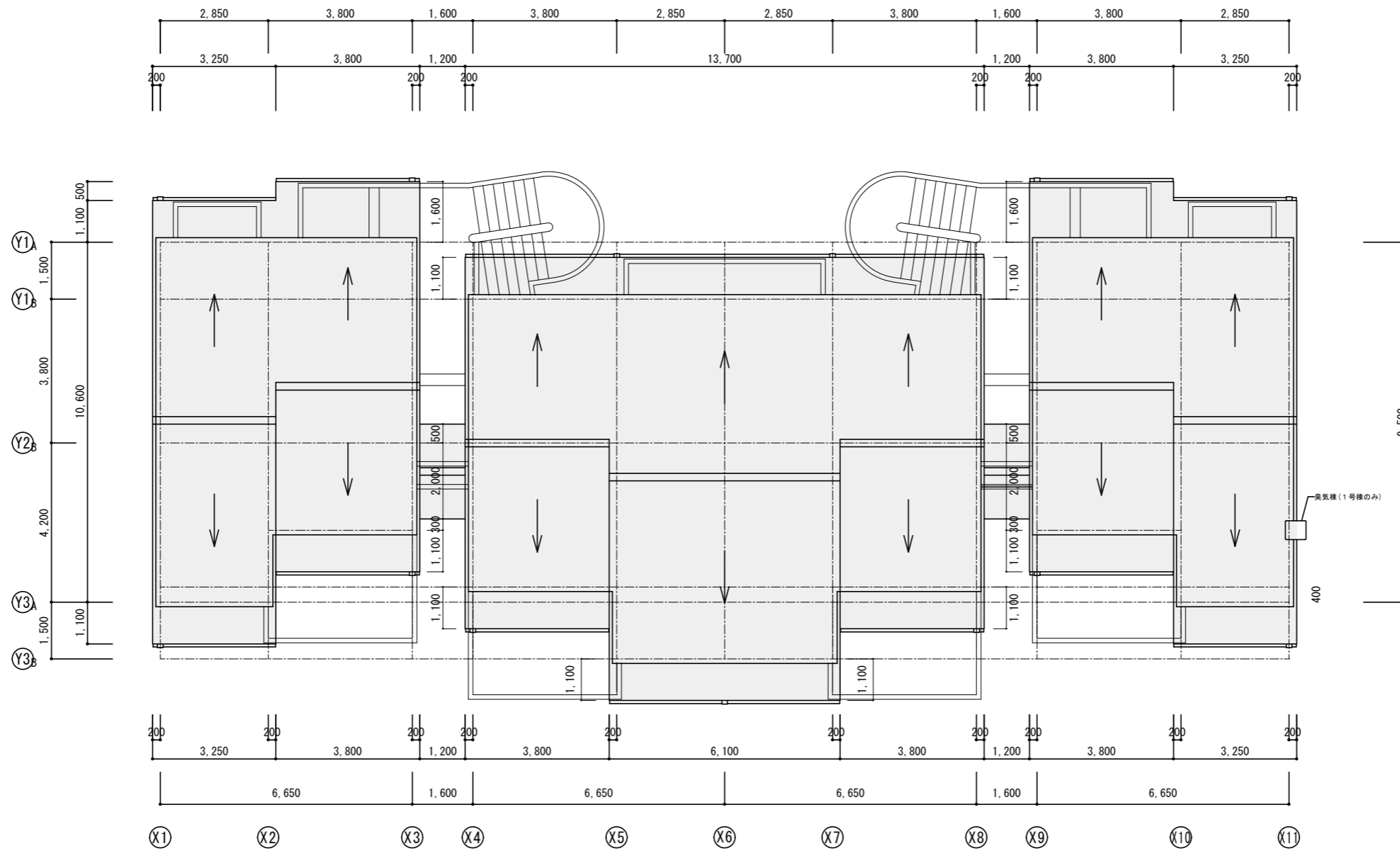
凡例	
□	外部枠組足場 W1200・900・600

1. 工事車両進入口には交通誘導員を常駐させること。
2. 工事範囲並びに、工事用車両進入経路にある床、会所、側溝、その他の設備等について鉄板等により、損傷の無いように十分に養生を行うこと。
また、工事建物並びに、その周囲を損傷することのないように留意すること。
3. 工事完成に際して、工事に使用した敷地は、清掃整地を充分に行い、損傷部分があるときには補修すること。また工事により広場等を荒らした場合は、清浄な山砂を敷きならし転圧すること。
建物内についても、清掃等を充分に行うこと。
4. 仮設計画図については参考とし、現場に応じて監督職員と協議し、承諾を得たものとする。

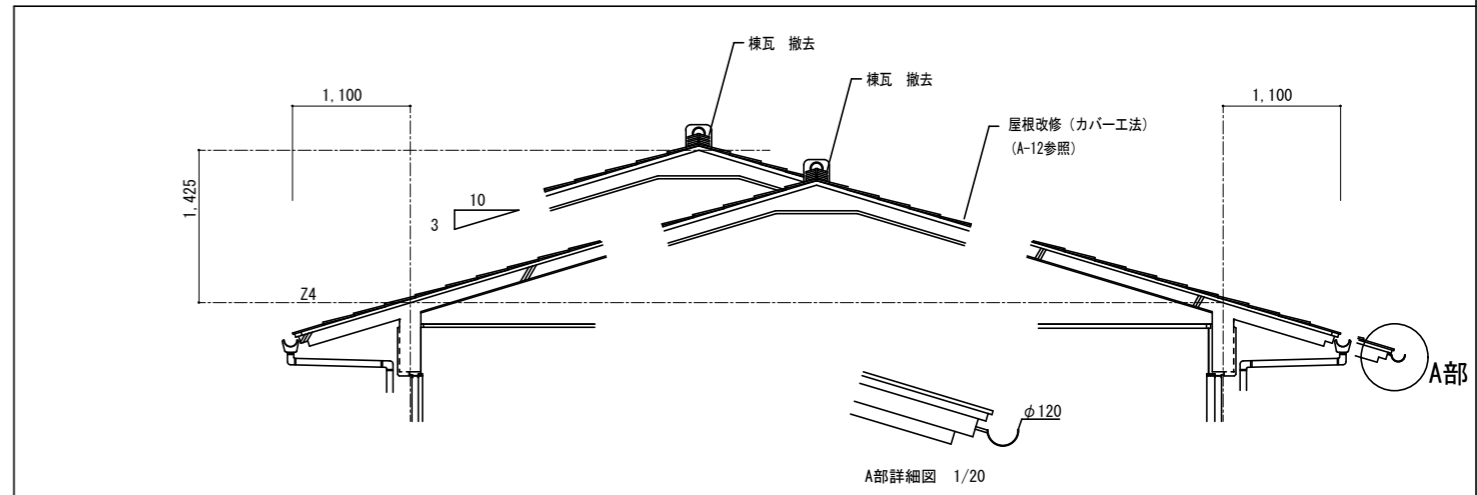





足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040	所長	主任	担当	工事名 神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事	縮尺 1/100	SHEET A-09	年月日 R8.5
				図面名 各棟 3階平面図			



※屋根全面改修 (カバー工法)



 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040	所長 主任 担当	工事名 図面名	神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事	縮尺 1/100 1/20	SHEET A-10	年月日 R8.5
			各棟 既存屋根伏図・部分詳細図			



南立面図 1/100


東立面図 1/100

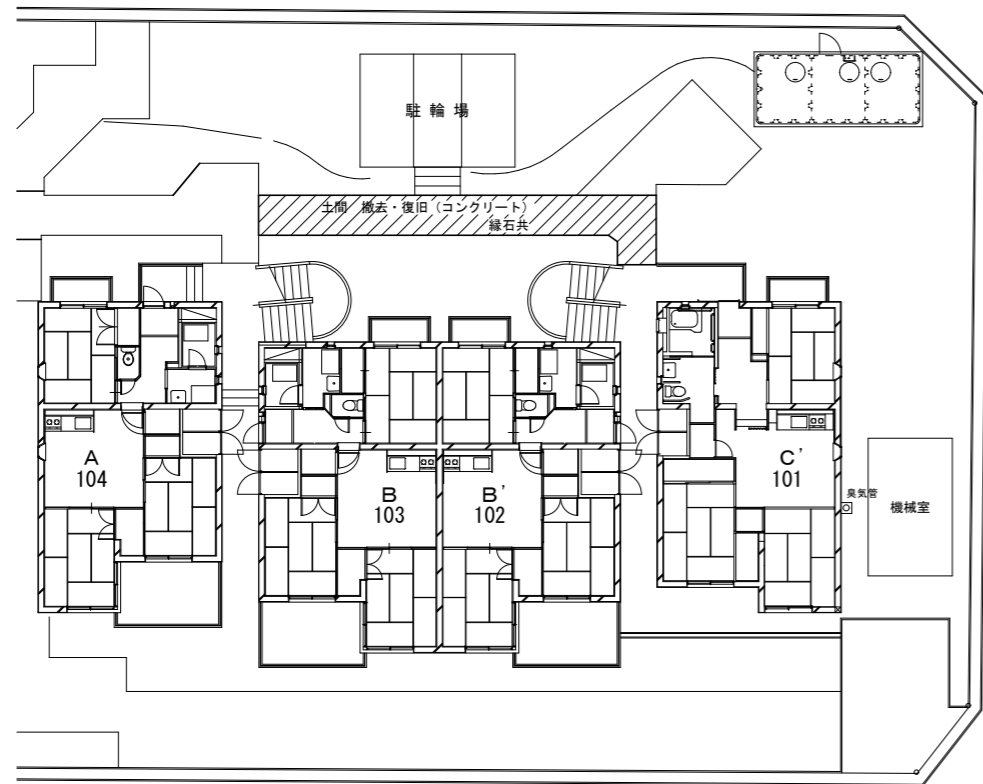


北立面図 1/100

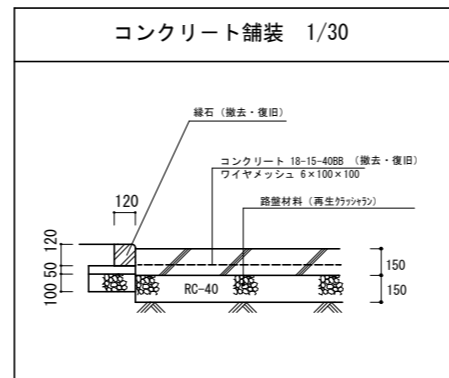
西立面図 1/100

H29外壁改修 縦樋改修 VPφ75
 軒樋改修 塩ビφ120カラー
 軒樋受改修 @1000
 ケラバ金物改修 SOP
 換気フード改修 SOP

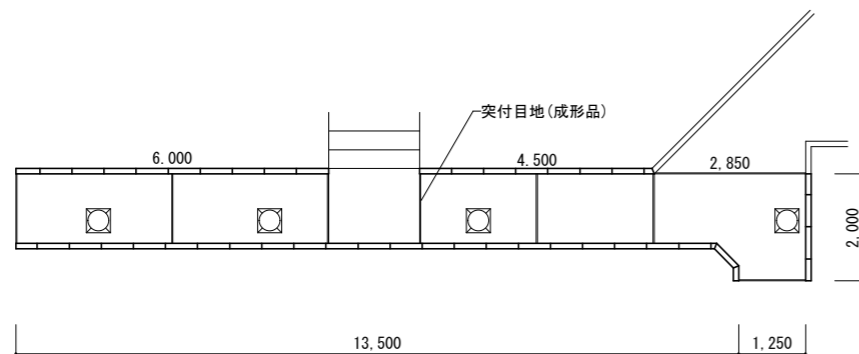
 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040	所長 主任 担当	工事名 神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事 図面名 各棟立面図	縮尺 1/100	SHEET A-11	年月日 R8.5



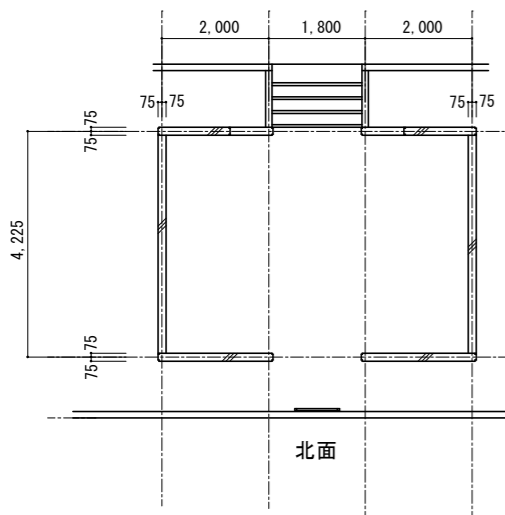
土間 配置図
S=1/200



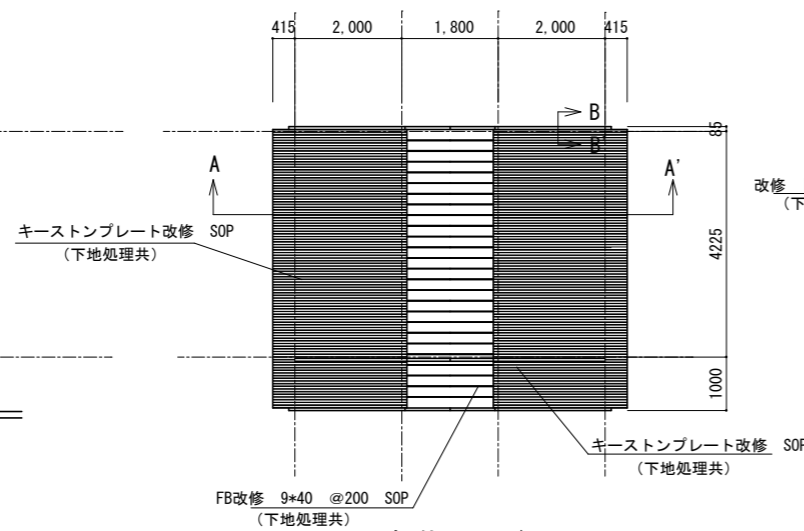
コンクリート舗装 1/30



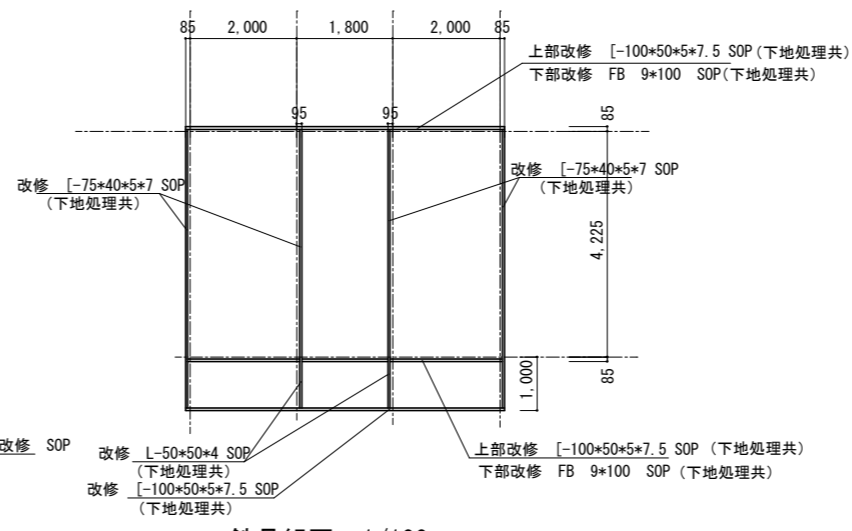
土間復旧 (コンクリート) 縁石共
S=1/100



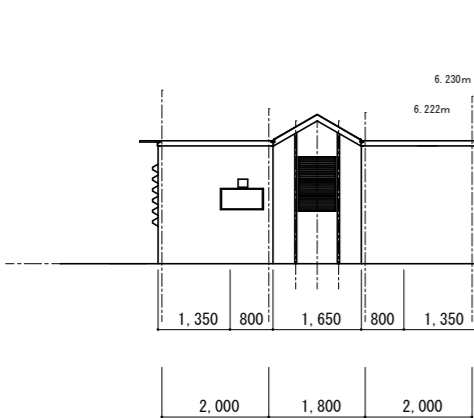
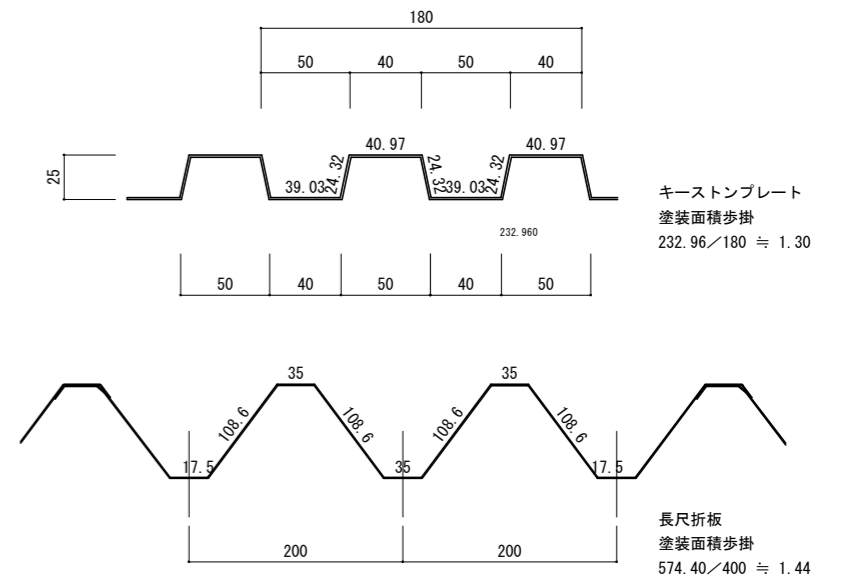
平面図 1/100



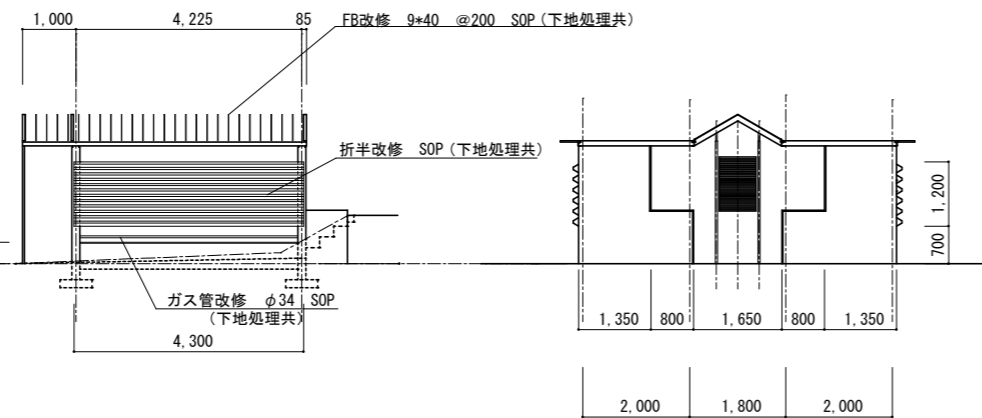
屋根伏図 1/100



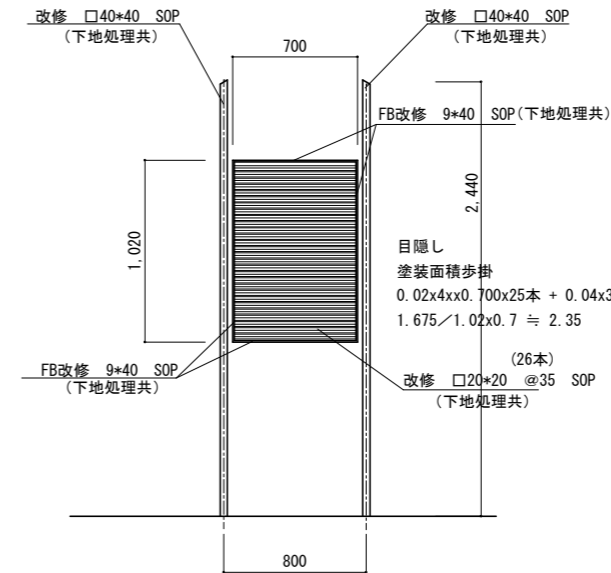
鉄骨組図 1/100



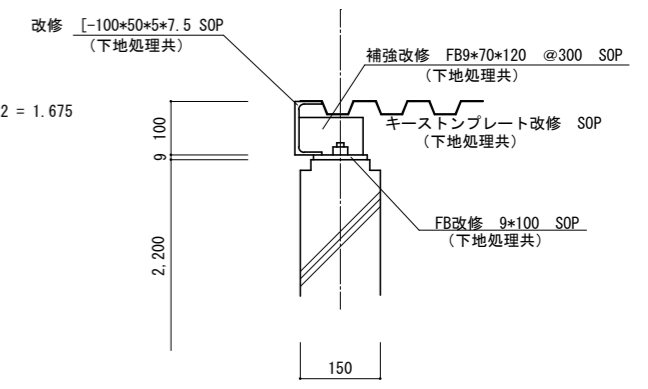
北立面図 1/100



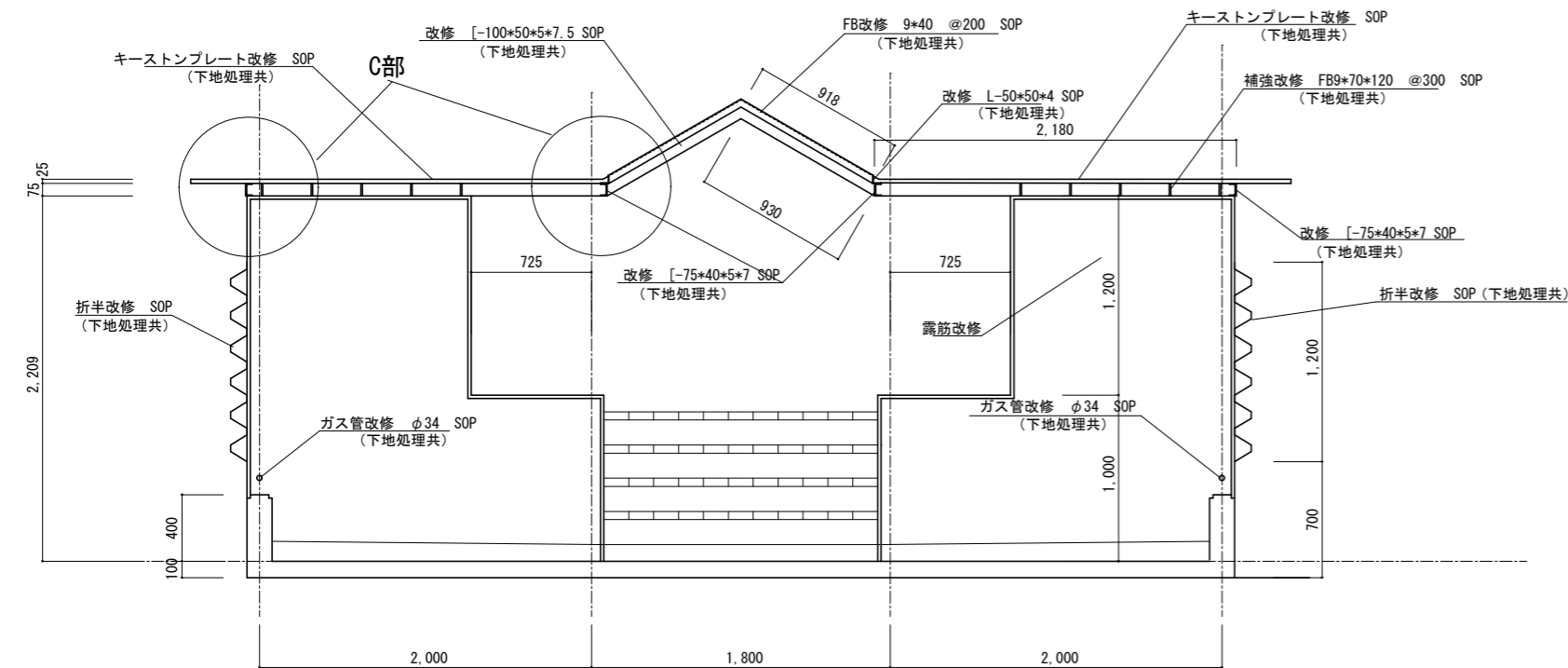
西立面図 1/100



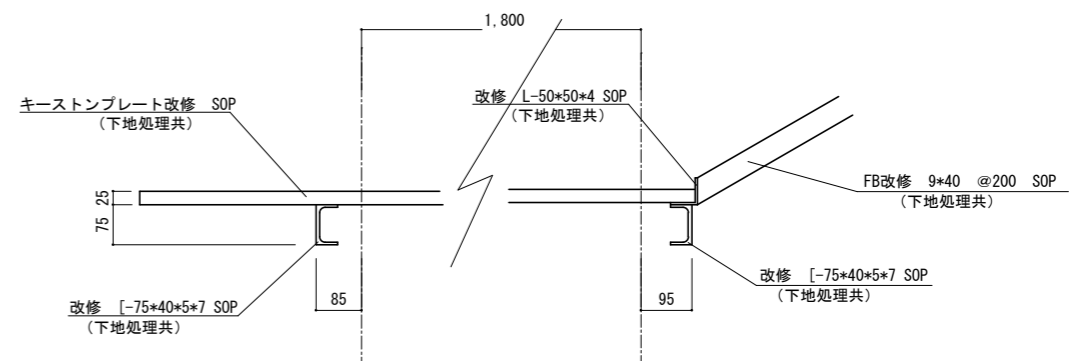
目隠し詳細図 1/30



B-B' 断面詳細図 1/10



A-A' 断面図 1/30



C部 断面詳細図 1/10

- 【工事概要】
 1 工事場所 宇治市神明宮東 8 7
 2 建物概要

建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	消防法令別第一耐震安全性の分類	備考
				○甲 ○乙	工事区分を記載
				○甲 ○乙	例：新築
				○甲 ○乙	全館無人改修
				○甲 ○乙	執務並行改修

- 3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称	神明宮東市営住宅			
電灯設備		●	○	○	○
動力設備		●	○	○	○
雷保護設備		○	○	○	○
受変電設備		○	○	○	○
電力貯蔵設備		○	○	○	○
発電設備		○	○	○	○
構内情報通信設備		○	○	○	○
構内交換設備		○	○	○	○
情報表示設備		○	○	○	○
映像・音響設備		○	○	○	○
拡声設備		○	○	○	○
誘導支援設備		○	○	○	○
テレビ共同受信設備		○	○	○	○
監視カメラ設備		○	○	○	○
駐車場管制設備		○	○	○	○
防犯・入退室管理設備		●	○	○	○
火災報知設備		○	○	○	○
中央監視制御設備		○	○	○	○
医療関係設備		○	○	○	○
構内配電線路		○	○	○	○
構内通信線路		○	○	○	○
電波障害調査		○	○	○	○
撤去工事		●	○	○	○

【特記事項】

- 1 一般事項
 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和7年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和7年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和7年版」による。
 2) 工事項目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
 2 特記事項
 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項目	特記事項
一般	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気工事士	契約電力500kW以上の場合も、第1種電気工事士による施工を行う。
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内に置くことが ※できる ○できない
	※定場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
	※監督職員事務所	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) ・公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) ・電気設備工事監理指針 ・電気設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)
事	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	●建設副産物の処理 右記のほか、現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 ○再生資源利用を図るもの【 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○SF6ガス使用機器 ●蛍光灯 ○建設発生土処分 ○構外指定地に搬出処理 ※(一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○構内指定場所に敷き均し
	再生資源利用(促進)計画・実施書の提出	詳細は現場説明書による。
	1)「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2)関係法令に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。	
	○アスベスト成形板の処理等(以下のほか、現場説明書による)	施工調査 アスベスト成形板の除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲 ※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
	処理方法	※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。
項	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分V ₀ (○30 ○32 ○34) 地表面粗度区分(○I ○II ○III ○IV)
	○風圧力(耐風力)	建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力(耐風力)検討(計算)書を監督職員に提出する。なお、検討(計算)範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受電部システム及び引下げ導線システム ○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト ○
	○電線類	1) 特記なきものは、EM-1Eとする。 2) EM電線、EMケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハログン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 EM-アクセスフロア JCS4502(600Vアクセスフロア用耐火性ポリエチレンシースケーブル)による600Vアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐火性ポリエチレンシースケーブル(EM-E)及び600Vアクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐火性ポリエチレンシースケーブル(EM-E)を示す。 EM-MEES JCS4271に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐火性ポリエチレンを用いたもの 3) 長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入根(樹脂被覆鉄線等)を挿入する。
	○電線管	電線管 ○RF管 ただし、露出部分は鋼製電線管とする。 分電盤等の2次側で第1ボックスまでは(※鋼製電線管 ○PF管)とする。 ○ねじなし電線管 1) 雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2) スラブ厚の1/4を超える外径の配管及び(PF22)又は(E25)相当を超えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管 最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。 下記の露出配管は塗装(指定色塗装)を行う。 ○屋外(○屋上を除く) ○屋内居室 ○屋内機械室・電気室 ○廊下 分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
	○電線本数、管路等	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
	○ボックス	分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に(5.1)を1本以上立上げる。
	○フラッシュプレート	和室 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製) その他 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製)
	○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。(図面特記のあるものを除く。) 二重床 ※インナー形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 二重床以外 ※飛び出し形 ○引出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 (フロアベースは水平高低調整式(空転防止リング付) ※磁金製 ○アルミ製とする。)
	○機器	寸法 盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等 (○溶融亜鉛メッキ ○SUS) その他 (○一般品 ○SUS ○)

章	項目	特記事項
一般	※工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類書式集*一覧表により提出。 ◆宇治市ホームページ参照 <http://www.city.uji.kyoto.jp> 月報 ※2部 ○3部 毎月末にびめ、翌月の5日までに提出する。 ※工事写真 1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領(最新版)」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) 加減板情報電子化については、現場説明書による。
	※履行報告	
	※完成図書	名称 内容 大きさ 部数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ○機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書(機器取説書を含む) 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○諸官庁提出書類 副本 1式 ○原図 完成図 1部 ○完成写真 アルバム綴り 2部 電子納品については、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
	●耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」により計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2) 下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。 設置場所 ○特定の施設 ○一般の施設 上層階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.0(1.5) 中 間 階 1.5(1.5) 1.0(1.5) 1.0(1.5) 0.6(1.0) 1 階及び地下階 1.0(1.0) 0.6(1.0) 0.6(1.0) 0.4(0.6) 設置場所 ○特定の施設 ○一般の施設 上層階、屋上及び塔屋 2.0 1.5 中 間 階 1.5 1.0 1 階及び地下階 1.5 1.0 注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般の施設を適用する。 注2 屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注3 ()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 注4 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注5 上層階の定義は、6階建以下の場合には最上階、7~9階建の場合には上階2階。 注6 重要機器(水槽類含む)は、下記による。(水槽類にはオイルタンク等を含む。) ○配電盤 ○直流電源装置 ○自家発電装置 ○交換機 ○電算用電源 ○中央監視装置 ○UPS装置 ○自動火災報知装置 注7 操作卓は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、卓上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。
	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分V ₀ (○30 ○32 ○34) 地表面粗度区分(○I ○II ○III ○IV)
	○風圧力(耐風力)	建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力(耐風力)検討(計算)書を監督職員に提出する。なお、検討(計算)範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受電部システム及び引下げ導線システム ○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト ○
	○電線類	1) 特記なきものは、EM-1Eとする。 2) EM電線、EMケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハログン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 EM-アクセスフロア JCS4502(600Vアクセスフロア用耐火性ポリエチレンシースケーブル)による600Vアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐火性ポリエチレンシースケーブル(EM-E)及び600Vアクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐火性ポリエチレンシースケーブル(EM-E)を示す。 EM-MEES JCS4271に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐火性ポリエチレンを用いたもの 3) 長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入根(樹脂被覆鉄線等)を挿入する。
	○電線管	電線管 ○RF管 ただし、露出部分は鋼製電線管とする。 分電盤等の2次側で第1ボックスまでは(※鋼製電線管 ○PF管)とする。 ○ねじなし電線管 1) 雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2) スラブ厚の1/4を超える外径の配管及び(PF22)又は(E25)相当を超えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管 最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。 下記の露出配管は塗装(指定色塗装)を行う。 ○屋外(○屋上を除く) ○屋内居室 ○屋内機械室・電気室 ○廊下 分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
○電線本数、管路等	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。	
○ボックス	分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に(5.1)を1本以上立上げる。	
○フラッシュプレート	和室 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製) その他 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製)	
○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。(図面特記のあるものを除く。) 二重床 ※インナー形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 二重床以外 ※飛び出し形 ○引出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 (フロアベースは水平高低調整式(空転防止リング付) ※磁金製 ○アルミ製とする。)	
○機器	寸法 盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等 (○溶融亜鉛メッキ ○SUS) その他 (○一般品 ○SUS ○)	

章	項目	特記事項
共通	○系と施工アンカー	施工後確認試験 ○行う ○行わない 試験方法 引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年度版)「8.12.7 施工確認試験」による。 確認強度 監督職員との協議による。
	○機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、EM電線及びEMケーブルを使用する。ただし、高圧主回路配線はこの限りでない。 ○分電盤 ○OA盤 ○実験盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○キュービクル式配電盤 ○筐体電源装置 ○交流無停電電源装置(UPS)(簡易型を除く) ○交流無停電電源装置(UPS)(簡易型を除く)
	○はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
	○再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
	○その他	屋外の盤類・開閉器箱 ○SUS ○鋼板製 屋内外のフルボックス ○SUS ○鋼板製
	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
	●電気方式	幹線 ●単相3線式 100V/200V ○直流2線式 100V 分岐 ●単相2線式 ●100V ○200V ○直流2線式 100V
	○照明制御による効果の評価	一般社団法人日本照明器具工業会技術資料130「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。
	○照明制御装置	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を附属させる。
	○多重伝送制御システム	多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を附属させる。
電	○LED制御装置の種類	図面特記があるものを除き、LED照明器具は制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあつてはLX又はLZ、それ以外はLN又はLJとする。
	○RFP又はMP形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、SUSを含む複数の材料が適用されている場合は、SUSを適用する。
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形 ○電池別置形
	○フロアコンセント	○引出し形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 ○OAフロア用
	○分電盤等	1) 本工事の分電盤、OA盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、JISC 8201-2-1「回路遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、JISC 8201-2-2「漏電遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」による1種サイズのものとする。 2) SPD分離器(配線用遮断機)は(○警報接点付 ○警報接点無)とする。 3) SPD分離器は、監督職員の承諾を受けて、SPD内蔵とすることができる。 OA盤の端子盤部に ○通気口 ○冷却ファン を設ける
	○照明用ポール	○開閉器を設ける(○配線用遮断器○カットアウトスイッチ) ○開閉器を設けない
	○一般照明の照度測定	実施 ○する ○しない
	●工事範囲	○配管 ○配線 ●機器取付
	●電気方式	幹線 ○三相3線式 200V ○ 分岐 ●三相3線式 200V ○
	○制御盤	1) 制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 2) インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開扉時に冷却装置を休止させる。 3) インバータ発熱対策用冷却装置の故障を盤面に表示(○させる ○させない)
力	○監視方法	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視
	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、運動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、制御盤で空調機を停止させる。
	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。 電動機出力(kW) 0.4 0.75 1.5 2.2 3.7 5.5 7.5 11 インバータ効率(%) 86.0 88.5 92.0 93.0 94.0 94.0 94.5 94.5 電動機出力(kW) 15 18.5 22 30 37 45 55 75 インバータ効率(%) 95.0 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 95.5 備考) 1) 電動機の供給電圧は100V又は200Vとする。 2) インバータ効率は、100%負荷時の値とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保護パネル	○I ○II ○III ○IV
	○受電部システム	突針支持管 ○鋼製 ○ステンレス製
	○接地システム	○A型接地極(○板状接地極 ○垂直接地極 ○放射状接地極) ○B型接地極(○環状接地極 ○網状接地極) ○構造体利用接地極(構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地極を○設ける ○設けない)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式 200V ○単相3線式 100V/200V ○三相3線式 V ○三相4線式 V/V
	○配電盤形式	○屋内キュービクル式配電盤 ○屋外キュービクル式配電盤 ○開放形配電盤 ○変圧器盤 ○コンデンサ盤 ○系統連系保護制御盤 ○高圧スイッチギア(○C X形 ○C W形 ○P W形) ○低圧スイッチギア(○C X形 ○C W形 ○C W形 ○F W形)
○変圧器の規格(ク)	1) 変圧器(スコット結線変圧器、モールド変圧器でH絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。)は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2) ダイアル温度計は、最高温度計付とする。	
受	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視
	○基礎	○本工事 ○別途工事 ○既設
	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する
	○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。(幅600mm以上・高さ1,800mm以上) ○盤内照明器具はLEDとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサー付とする。(盤面警報ランプ共)
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式 200V ○単相3線式 100V/200V ○三相3線式 V ○三相4線式 V/V
	○配電盤形式	○屋内キュービクル式配電盤 ○屋外キュービクル式配電盤 ○開放形配電盤 ○変圧器盤 ○コンデンサ盤 ○系統連系保護制御盤 ○高圧スイッチギア(○C X形 ○C W形 ○P W形) ○低圧スイッチギア(○C X形 ○C W形 ○C W形 ○F W形)
	○変圧器の規格(ク)	1) 変圧器(スコット結線変圧器、モールド変圧器でH絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。)は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2) ダイアル温度計は、最高温度計付とする。
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視
	○基礎	○本工事 ○別途工事 ○既設
○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する	
○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。(幅600mm以上・高さ1,800mm以上) ○盤内照明器具はLEDとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサー付とする。(盤面警報ランプ共)	

種	項	目	特	記	事	項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○直流電源装置	用途	○建築基準法用	○消防法用	○受変電設備専用	その他
	○交流無停電電源装置 (UPS)	用途	○過放電防止保護装置 (直流不足電圧継電器) の設定電圧は、90Vとする。			
	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○形式	○オープン形	○簡易形	○キュービクル		
	○連続運転可能時間	○10時間(乙)	○72時間(甲)	○		
	○発電機	電気方式	三相3線式			
		電圧	○210V	○6.6kV	○415V	
		定格出力	kVA以上	力率	0.8	
	○原動機	種別	○ガスタービン	○ディーゼル機関	○ガスエンジン	
		○マイクロガスタービン	○燃料電池	○コージェネレーション		
	定格出力	kW(PS)以上				
	始動方式	○電気式	○空気式			
	冷却方式	○ラジエーター式	○水槽循環式			
	現地負荷試験	○行う	○行わない			
○燃料	種類	○重油	○軽油	○灯油	○ガス()	
	燃料小出槽	○有	○無			
	主燃料槽	○有	○無			
○監視方式	○警報盤による代表監視	○中央監視盤による監視				
○太陽光発電装置	太陽電池	アレイ	設置可能建築面積	公称最大出力	kW以上	
	系統連系	○受動	○能動	m ² 以下(長辺	m x 短辺	
	パワーコンディショナ出力	相	線式	V	kW以上	
	逆潮流	○有	○無			
	交流出力電圧	○100V	○200V			
	出力電気方式	○三相3線式	○単相3線式	○単相2線式		
○外部移報	○有	○無				
通信設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○施工方法	○金属管配線	○ケーブル配線	○合成樹脂管配線		
構内交換設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○保安器用接地	○本工事	○別途工事			
	○形式	○電子交換機	○ボタン電話装置			
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置	○出退表示設備	○時刻表示設備		
	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○親時計及び付属装置	○CR -P M	○CW -P M	○プログラムタイマ(○カード式	○キー式	
	○子時計	特記なきものは	○SWA ₃₀ -G ₂ B ₂	○		
設備音響	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○施工方法	○金属管配線	○ケーブル配線	○合成樹脂管配線		
拡声設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○増幅器	用途	○全館放送用(○一般放送	○非常放送)	○ローカル放送用	
		○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。				
	○スピーカ	特記なきものは	○SC ₀ H _i -1V ₀ -M	○		
誘導支援設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○工事内容	○音声誘導装置	検出方式	(○磁気式	○無線式	
		○インターホン	○電話式	○相互式		
		○テレビインターホン	○親機に子機カメラ角度調整機能(上下)	○を設ける。		
		○トイレ等呼出し装置	○1窓	○3窓	○5窓	
			呼出しボタン	○壁付ボタン(フルスイッチの長さは0.2m程度とする)		
				○壁付押しボタン(押しボタンの長さは1.2m程度とする)		
			○通話機能			
			○受付呼出し装置	○誘導音		
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○アンテナ	○UHF用	○BS用	○CS用		
		○AM用	○FM用	○CATV		
	○アンテナマスト	○壁面取付形	○自立形			
		○配管用ステンレス鋼管				
		○一般構造用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)				
		○圧力配管用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)				
	○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。測定チャンネルは、監督職員と協議する。				

種	項	目	特	記	事	項
監視カメラ	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○画像	○カラー	○白黒			
	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式	○デジタル同軸伝送方式	○		
	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○車両検出方式	○ループコイル方式	○光線方式			
	○工事範囲	●配管	●配線	○機器取付		
		●機械整備と調整する事				
	○工事種類	○機械整備用配管				
		○防犯装置	○入退室管理制御装置			
	○自動火災報知装置	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付	
	○受信機	○形	級	回線		
		○壁掛形	○自立形			
		○単独形	○複合形			
		○副受信機	○窓			
		○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。				
	○光警報装置	○				
	○消火ポンプ始動	○消火栓箱内押ボタン				
		○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。)				
	○機器取付箱	○消火栓一体形	○単独形			
○自動閉鎖装置	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○運動制御器	回線	(予備電源(蓄電池)内蔵)			
		○単独	○自火報受信機と一体			
	○自動閉鎖装置	○防火戸用【DC24V	○.6A以下電磁式またはラッチ式】			
		○防煙ダンパ用				
		【別途工事	瞬時通電式又は電動式 DC24V	○.6A以下遠方復帰機構(電動式) DC24V	○.7A以下】	
		○防火シャッター用				
		【別途工事	DC24V	○.6A以下】		
○非常警報装置	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○電気方式	DC24V				
	○電源装置	○非常電源(蓄電池)	○自動火災報知設備と兼用			
○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付		
	○受信機	○単独形	○自火報受信機と一体			
	○ガスの種類	○都市ガス(13A)	○液化石油ガス			
○諸警報表示		受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。				
○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付			
○監視方式	○警報盤	○監視制御装置				
○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付			
○非接地電源用分電盤	キャビネット	○鋼製	○ステンレス製			
○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出しボタン	○有線式	○無線式			
		○防滴	○防湿			
○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。					
○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付			
○電気方式	高圧	○三相3線式	6kV			
	低圧	○三相3線式	200V	○		
		○単相3線式	100/200V			
		○単2線式	(○100V	○200V)		
○ふ設方式	○地中線	○管路式	○液付硬質合成樹脂管(FEP)			
			○ポリエチレン被覆管(PLP)			
			○			
		埋設深さ	特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面)から300mm以上とする。			
○区分開閉器	○架空線	電柱	○適心カプレストレストコンクリートポール			
	○高圧負荷開閉器	7.2kV	300A			
	用途	○架空引込用	○地中引込用			
	構造	○耐中塩じん用	○耐重塩じん用			
	形式	○引外し装置付き(SOG形)	○引外し装置なし	○避雷器内蔵		
		○制御電源用変圧器内蔵				
○マンホール及びハンドホール	構造・寸法	○標準図による	○図示による。			
		蓋の文字	○蓋の用途表示は電力とする。			
			ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。			
			ケーブルが直接触れない場合の金物は、接地を省略してもよい。			
○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはE ₁ ～高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395 F6 600V 架橋ポリエチレンケーブル(3層押出型)に(※よる	○よらない				
○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。					
○端子、高圧ケーブル	○一般用	○前場用	○重前場用			
○避雷器	○屋外形	○前場形				
○装柱材	○一般用	○前場形				
○外灯	基礎	○本工事	○別途工事			
		○外灯ホルの材質が鋼製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。				
○工事範囲	○配管	○配線	○機器取付			
○ふ設方式	○地中線	○管路式	○液付硬質合成樹脂管(FEP)			
			○ポリエチレン被覆管(PLP)			
			○			
		埋設深さ	特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面)から300mm以上とする。			
		○架空線	電柱	○適心カプレストレストコンクリートポール		
○マンホール及びハンドホール	構造・寸法	○標準図による	○図示による。			
		蓋の文字	○蓋の用途表示は通信とする。			
			ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。			
			ケーブルが直接触れない場合の金物は、接地を省略してもよい。			

種	項	目	特	記	事	項
調波抑制装置	○調査時期	○測定のみ	○対策工事実施設計書作成まで			
	○測定時期	○工事前	○工事中	○完成後		
	○測定箇所	○受変電設備・盤	○受変電設備・盤	○		
	○測定内容	○	○	○	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。	

別表 付属品・予備品

○インターキャビネット	箱	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)				
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。			

試験・検査一覧

工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
○受変電機器○動力盤及び電灯盤○耐圧試験●絶縁抵抗測定○接地抵抗測定○機器機能試験●その他監督職員の指示するもの
●工事着手に際し、事前に必要な機器(照明機器、空調機器、放送設備等)の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。(照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。)
○着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○後援エンジニアの施工確認試験(引張試験機による引張試験)は、1日の施工本数の3%以上かつ3本以上とする。
例 盤・ケーブルラック・ケーブルダクト等

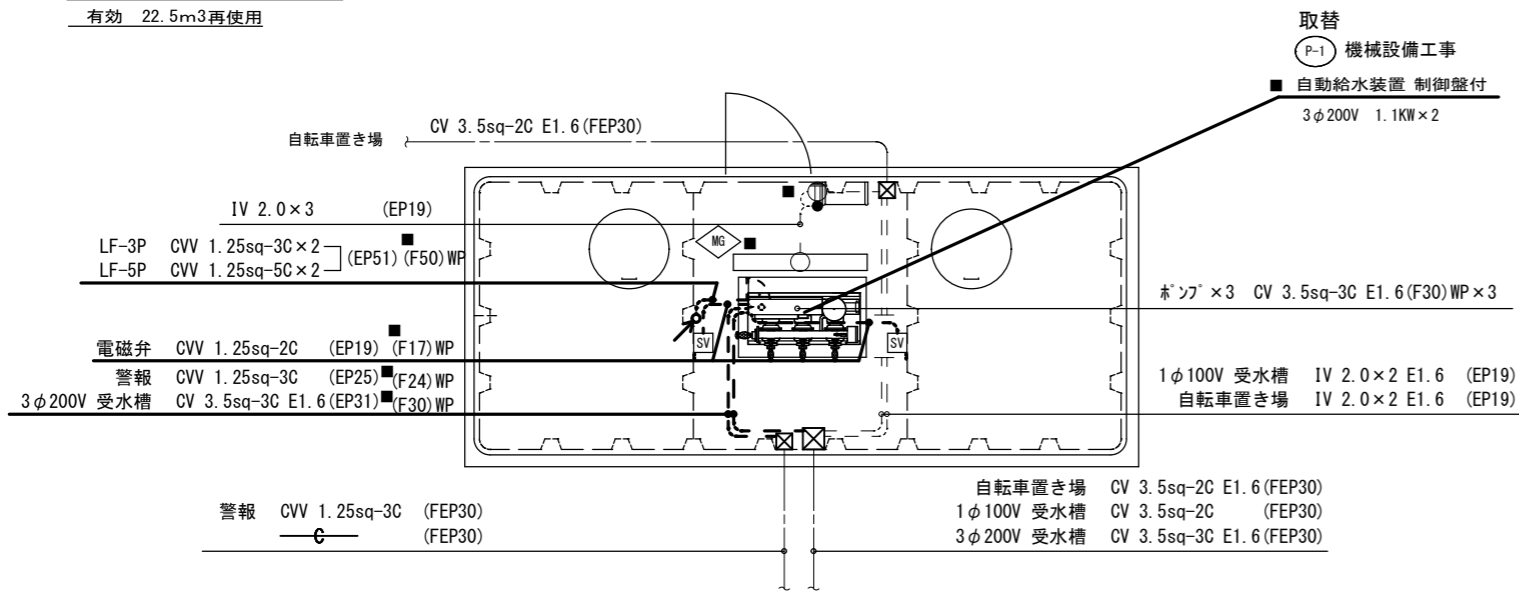
その他

●試験機器類の校正記録を提出する。
○停電工事が必要な時は、当該高圧受変電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
○工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針(令和7年度版)の資料11(P1172)に基づき施工する。
○鉄筋コンクリートをダイヤモンドドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切度処分とする(電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する)。
○交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2名以上配置する。
○カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ(参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。)

名称	測点	取付高(mm)	名称	測点	取付高(mm)
取引用計器	地上へ上端	2,000	端子盤	床上へ上端	1,900
引込開閉器	〃	1,800	保安器箱	天井下へ上端	200
			壁付位置ボックス	床上へ中心	300
壁掛制御盤	床上へ上端	1,900	〃(和室)	〃	150
手元開閉器	床上へ中心	1,500			
操作スイッチ	〃	1,300	壁掛スピーカー	天井下へ上端	200
			アッテネーター	床上へ中心	1,300
			壁掛型時計	床上へ上端	1,900
分電盤	床上へ上端	1,900	子時計	天井下へ上端	200
スイッチ(一般)	床上へ中心	1,300			
〃(身障者使用)	〃	900	壁掛インターホン	床上へ中心	1,500
コンセント(一般)	〃	300	〃(身障者)	〃	1,100
〃(和室)	〃	150	壁付位置ボックス	〃	300
〃(台上)	台上へ中心	300	〃(和室)	〃	150
〃(土間)	床上へ中心	1,300			
ブラケット(一般)	〃	2,100	機器収納箱	天井下へ上端	200
〃(踊場)	〃	2,500	直列ユニット	床上へ中心	300
〃(鏡上)	鏡上端へ中心	150	〃(和室)	〃	150

T-1
既設受水槽鋼板一体型ポンプ室付
有効 22.5m3再使用



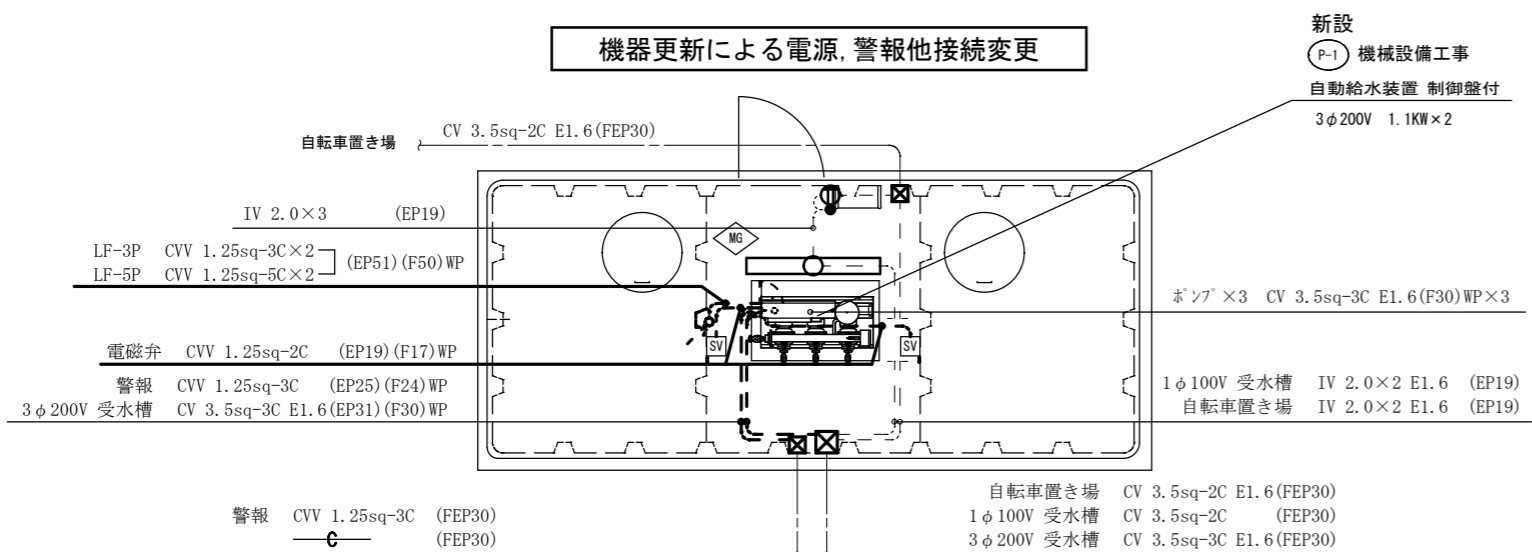
現況 ポンプ室平面図 1/50

■印 既設撤去取替



T-1
既設受水槽鋼板一体型ポンプ室付
有効 22.5m3再使用

機器更新による電源、警報他接続変更



改修 ポンプ室平面図 1/50

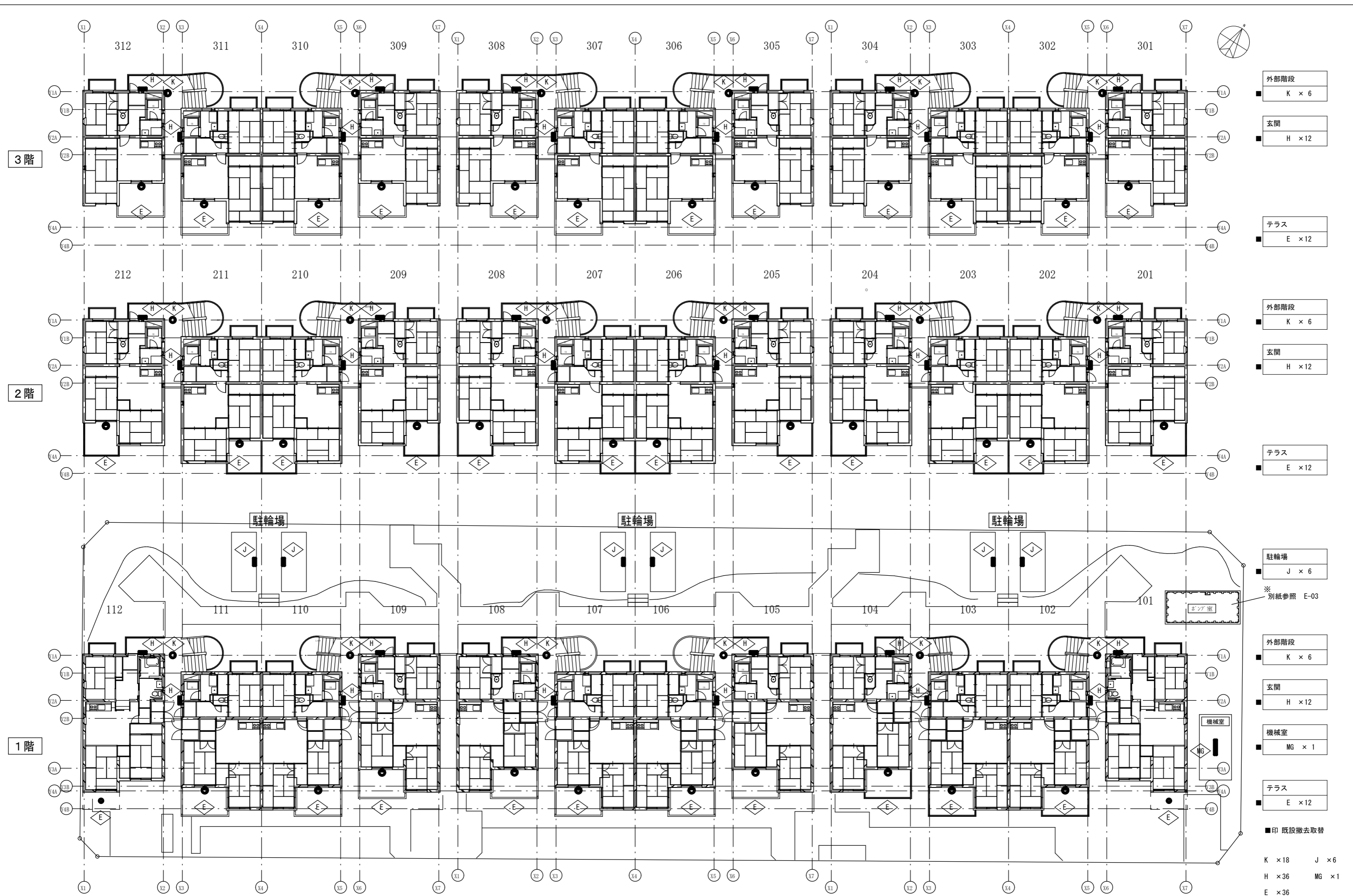
■ 取替
※警報設備は機械警備と調整をする事

凡例図	
	埋設配線
	露出配線

凡例図	
	コンセント・スイッチ
	既設BOX
	照明器具
	制御BOX

※製品型番に関しては全て参考とする。

E	ISC2MP-40	IL 40W-1	E	LGW85014 SF	LED 11.6W
撤去			新設	壁面・天井取付 兼用型 	
H		FL 10W-1	H	LGW80158 LE1	LED 4.5W
撤去			新設		
J	LSS1MP/RP-1400LM-2		J	LSS1MP/RP-2-14	LED 11.6W 公共品番
撤去			新設		
K	LGW50630K	LED 7.3W-2	K	LGW51704W CF1	LED 10.7W フレーム：初付
撤去			新設	壁面・天井取付 兼用型 	
MG	FA41006 SUH	FLR40W-1	MG	LSS1MP/RP-4-30 公共品番	LED 20.6W
	FSS9MP-321	ガ-ト付 Hf 32W-1		FK41554 (ガ-ト品番)	LED 20.6W
撤去			新設	ガ-ト付 	



3階

2階

1階

外部階段

K × 6

玄関

H × 12

テラス

E × 12

外部階段

K × 6

玄関

H × 12

テラス

E × 12

駐輪場

J × 6

※別紙参照 E-03

外部階段

K × 6

玄関

H × 12

機械室

MG × 1

テラス

E × 12

■印 既設撤去取替

K × 18

J × 6

H × 36

MG × 1

E × 36

足立建築工房 一級建築士事務所
 京都府宇治市木幡平尾 1-65
 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040

所長

主任

担当

工事名

神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事

図面名

電気設備 各階平面図

縮尺
1/200

SHEET
E-04

年月日
R8. 5

機械設備工事特記仕様書 No.1

【工事概要】

1 工事場所	宇治市神明宮東87番地
2 建物概要	
建物名	住宅棟
構造	RC
階数	3
延床面積 (m ²)	
消防法令別表第一	耐火安全性の分類
	○甲 ○乙
	○甲 ○乙
	○甲 ○乙
	○甲 ○乙

3 工事科目

工事科目	建物名称	神明宮東市営住宅
空調設備		○
換気設備		○
排煙設備		○
自動制御設備		○
衛生器具設備		○
給水設備		○
排水設備		○
給湯設備		○
消火設備		○
ガス設備		○
厨房機器設備		○
浄化槽設備		○
医療ガス設備		○
撤去工事		○

【特記事項】

- 一般事項
 - 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和 年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和 年版（以下「標準図」という。）」及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和 年版」による。
 - 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
- 特記事項

項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

章	項目	特記事項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課管轄技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第4章第4節1.4.2(3)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事に必要と当っては、請負契約書第10条に基づき現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者 ○技能士（一般）	※適用する ○適用しない ※配管（配管工事） ※建築板金（ダクト製作及び取付け） ○冷凍空調調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要とする工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが ※できる ○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
二	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 ○再生資源利用を図るもの【 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○臭化リチウム ○ ○構外指定地に搬出処理 ※（一財）財団法人砂利採取地整備公社 ○構外搬出適切処理 （運搬及び処分費は ○本工事 ○別途） ○構内指示場所に敷き均し
	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	詳細は現場説明書「II特記事項 14 建設副産物の取扱い 2）再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。
	1) 「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。	
	2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。	
	3) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。（構成：※本工事 ○別途、処分費：※本工事 ○別途、運搬費：※本工事 ○別途）	
	○アスベストの処理等	
	1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。	
	○ダクトパッキン ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数：）	
	○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数：）	
	○煙道の断熱材 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数：）	
○アスベスト成形板 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数：）		
アスベスト成形板の処理等		
施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。		
・アスベスト成形板使用部位の確認・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認		
・アスベスト成形板使用数量の確認・施工範囲等の確認		
確認範囲 ※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法		
2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。（ただし、調査費用は ※本工事 ○別途 とする。）		
※JIS A 1481-2「建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はJIS A 1481-3「建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第3部：アスベスト含有率の X線回折定量分析方法」による。		
3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督職員との協議による。		

章	項目	特記事項																																												
一	※工事関係書類	管轄工事契約関係書類提出書類書集一覧表により提出。 ●宇治市にA'-'Z'参照（http://www.city.uji.kyoto.jp） 月報 ※2部 ○3部 毎月末にめ、翌月の5日までに提出する。																																												
	※履行報告	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編（最新版）」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) デジタルカメラで撮影可とする。																																												
	※工事写真																																													
	※完成図書	名称 内容 大きさ 部数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ●機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○諸官庁提出書類 副 本 1式 ○原図 完成 図 1部 ●完成写真 アルバム綴り 2部 電子納品については、現場説明書による。																																												
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。																																												
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。																																												
	※総合試験調整	●風量調整（測定共） ●水量調整（測定共） ○室内外空気温度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ●騒音の測定 ○別表2による ○飲料水の水質の測定 ○雑用水の水質の測定 ●室内温度測定（夏冬の切替による）																																												
	●耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2) 下記の設計用水平震度（KH）により、機器製作固定を行う。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="4">○特定の施設</th> <th colspan="4">●一般の施設</th> </tr> <tr> <th colspan="2">重要機器</th> <th colspan="2">一般機器</th> <th colspan="2">重要機器</th> <th colspan="2">一般機器</th> </tr> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td> <td>2.0(2.0)</td> <td>1.5(2.0)</td> <td>1.5(2.0)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>2.0(2.0)</td> <td>1.5(2.0)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>1.5(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.4(0.6)</td> <td>1.0(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.4(0.6)</td> <td>0.4(0.6)</td> </tr> </table>	設置場所	○特定の施設				●一般の施設				重要機器		一般機器		重要機器		一般機器		上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	1.5(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)	0.4(0.6)
	設置場所	○特定の施設				●一般の施設																																								
		重要機器		一般機器		重要機器		一般機器																																						
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	1.0(1.5)																																						
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	1.5(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	0.6(1.0)																																						
1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)	0.4(0.6)																																						
○特定の施設																																														
設置場所	水 槽		●一般の施設		水 槽																																									
上層階、屋上及び塔屋	2.0		1.5		2.0		1.5																																							
中間階	1.5		1.0		1.5		1.0																																							
1階及び地下階	1.5		1.0		1.5		1.0																																							

注1	耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。
注2	() 内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。
注3	設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。
注4	上層階の定義は、6階建以下の場合是最上階、7～9階建の場合は上階2階。
注5	重要機器（水槽類）は、下記に示すものとする。（水槽類にはオイルタンク等を含む。）
注6	「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」による形鋼振れ止め支持を行う場合は、S ₁ 種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。

章	項目	特記事項
一	●はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
	●インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。施工後確認試験 ○行（国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年度））による。 ○行わない
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は ○遠方復帰式（電気式（定格入力 DC24V ○、6A以下）） ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○不要 ○必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。（ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要な応じ設ける。
	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	●機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等（○溶融亜鉛メッキ ●SUS ） ビット内 ・その他（●一般品 ○） ●機器側の材質がSUS製の場合は、SUS製とする。
	○防火区画	○平面階 ○図示 ○
	○掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。
	○天井仕上区分	() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
二	○給油設備	地下オイルタンク ○設ける ○設けない 遠隔油量指示計 ○設ける ○設けない 副指示計 ○設ける ○設けない
	オイルサービスタンク	油面計 ○ゲージ式 ○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御 ○返油ポンプの起動、停止制御 ○漏油警報 ○遠隔警報 ○減油 ○漏減油
	油管（露出、トラフ内）	○配管用炭素鋼管（黒） ○
	油管（地中）	○ポリエチレン被覆鋼管 ○
	○建物導入部配管（排気及び通気を除く）	○標準図 施工4(a)（ルビクアットを使用） ○標準図 施工5(b)（ホーローを使用） ○標準図 施工5(c)（シリカゲルを使用）
	●鋼材	屋外部分 ○溶融亜鉛めっき（○2種35） ●ステンレス鋼製（SUS304）
	○制御及び操作盤	構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転（赤色）及び停止（緑色）表示 ○保護継電器の動作表示
	接点及び端子	○遠方発停用端子 ○湿度調節器用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）
	○主方式	○全空気方式（○中央 ○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ○個別方式 ○
	○主要熱源機器	○吸収冷温水機 ○チリングユニット ○空気熱源ヒートポンプユニット ○空冷冷温水機 ○空冷冷温水機（OHP OGHF ○） ○空冷冷温水機パッカー型空気調和機（OHP OGHF ○）
三	○設計時の温湿度条件	場所 屋 外 屋 内（調整目標値） 時 期 温度（DB） 湿度（RH） 温度（DB） 湿度（RH） 温度（DB） 湿度（RH） 冬 期 C % C % C % 夏 期 C % C % C %
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法）
	○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法
	○配管材料（図面特記部分は除く）	冷温水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 冷却水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○塩化ビニル鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） 空調用排水管 ○配管用炭素鋼管（白）（○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡3層管（RF-VP） ○ビニル管（VP） 保温付VP管
	補給水管	○配管用炭素鋼管（白） ○
	膨張管	○配管用炭素鋼管（白） ○
	エア抜き管	○配管用炭素鋼管（白） ○
	冷媒管	○鋼管 ○断熱材被覆鋼管（ガス管：ハイグレード仕様） ○パッケージ型空気調和機の2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
	○冷媒管接続方法	○火無工法とする。
	○温度計	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計
四	○定風量ユニット	○メカニカルタイプ
	変風量ユニット	○風速センサータイプ（○フロベラ形センサー ○熱線センサー）
	○ファンコイルユニット	風量分配ダクトは ○亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォームなど
	変形ファンコイルユニット	
	○バーナー制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御
	○電動機盤	○進相コンデンサー（○要 ○不要）
	○排熱投入再生器	直置き吸収冷温水機に（○要する。 ○不要である。）
	○高温再生器の構造	※図面による。
	○J-V（V）装置	発電方式 ○原動機、発電機 ○燃料電池 熱回収装置 ○温水熱交換機 ○排ガスボイラー ○排ガス熱交換機 ○熱回収用ポンプ ○その他 その他装置等 ○補機付制御装置 ○冷却塔（放熱用） ○
	○集中リモコン	表示機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 データ管理機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 ○外部記憶媒体への出力

足立建築工房 一級建築士事務所	所長	主任	担当	工事名	神明宮東市営住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事	縮尺	SHEET	年月日
京都府宇治市木幡平尾 1-65				図面名	機械設備工事 特記仕様書-1		M-01	
TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040								

機械設備工事特記仕様書 No.2

空気調和設備	○鋼板製煙道	厚さ ○3.2mm ○4.5mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○軸継手 ○掃除口												
	○ばい煙濃度計	○ファン付 ○ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)												
換気設備	○瞬間流量計	○固定形 個 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)												
	○保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温方法は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ○不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○カラ-亜鉛鉄板 ビニル化粧テープ巻き ・屋外 ○ステンレス鋼板 ○アルミ合金製 ○保温化粧ケース (樹脂製) ○アルミ合金製 ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水櫃の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。												
換気設備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○鋼板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト												
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式												
換気設備	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">ダクトの長辺</th> <th>板厚</th> </tr> <tr> <td>450mm以下</td> <td>450mmを超え1200mm以下</td> <td>0.6mm</td> </tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td> <td>1800mmを超えるもの</td> <td>1.0mm</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.2mm</td> </tr> </table>	ダクトの長辺		板厚	450mm以下	450mmを超え1200mm以下	0.6mm	1200mmを超え1800mm以下	1800mmを超えるもの	1.0mm			1.2mm
	ダクトの長辺		板厚											
450mm以下	450mmを超え1200mm以下	0.6mm												
1200mmを超え1800mm以下	1800mmを超えるもの	1.0mm												
		1.2mm												
換気設備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ●ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フードに取り付ける薄板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要												
	○保温	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。												
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²												
	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト												
排煙設備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法												
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製												
排煙設備	○排煙口	1) 形状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との取り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。												
	○保温	床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要 (図示) ※図面による。												
衛生器具設備	○小便器用節水装置	電気供給方式 ○AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池												
	○自動水栓	電気供給方式 ○AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池 手動スイッチ ○無し ○有り												
衛生器具設備	○大便器用洗浄弁	操作方式 ○手動式 ○電気開閉式 (○センサ式 ○タッチスイッチ式)												
	○水石けん入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○レバー式												
衛生器具設備	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁 ○センサ式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。												
	○給水方式	○水道直結方式 ○高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ●ポンプ直送方式 (給水ポンプユニット)												
給水設備	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○ビニル管 (HIVP) ●ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PB、SGP-FPB) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) ○保温付き (保護材) ポリプデン管 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル) ●ビニル管 (HIVP) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD) ○												
	●緊急遮断弁装置	○要 ●不要 駆動方式 ●電気式 ○機械式												
給水設備	○量水器	○現地表示式 (直読式) ○遠隔表示式												

給水設備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	●管の埋設深さ	1) 一般敷地 ●300mm ○ 2) 構内車両通路 ○600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
給水設備	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事
排水設備	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ●分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ●分流式 ○合流式 ポンプ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ●なし
	●放流式	汚水 ●直放流水管 ○浄化槽 ○ 雑排水 ●直放流水管 ○浄化槽 ○別途側・側溝 雨水ポンプアップ ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 湧水ポンプアップ ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
排水設備	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 (D-VA) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○
	屋内汚水排水管	○排水用塩ビライニング鋼管 (D-VA) ○ビニル管 (VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○
排水設備	通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 OMDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○
	地中配管 [屋内]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
排水設備	地中配管 [屋外]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ●ビニル管 (VP) ●ビニル管 (VP) 雨水管 ○コンクリート管
	鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD、SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
排水設備	○漏水試験継手	○必要 (図示箇所に取付ける) ○不要
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
給湯設備	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
	○給湯方式	○中央式 ○局部式 ガス湯沸器
給湯設備	○配管材料	○銅管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆銅管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 圧縮・プレス接合 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付き (保護材) ポリプデン管 ○架橋ポリエチレン管
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2、3、5による。
消火設備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連結送水管 ○
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。
消火設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼管 (白) 地中配管 ○消火用ポリエチレン管 (PE) 屋内外地中配管 ○外面被覆鋼管 (SGP-VS) ○消火用ポリエチレン管
	○保温	消火用充水タンクの保温を ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる)
ガス設備	○ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ○45,000kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (○50kg 本立 ○20kg 本立)
	○ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 注記 (本工事)
ガス設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素鋼管 (白) ○ 屋内外地中配管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。
	○地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法
ガス設備	○ピット内施工法	○溶接工法
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
ガス設備	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事
	○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式
ガス設備	○掘削工法	○掘削工法 () m
	○ケーシング材質	○配管用炭素鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス鋼管

その他	●コア抜き (ヤドリ穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチRCレーダー NJJ-105型同等品
	●校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	●交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	○保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	○鉄板敷き	1.524×6.096×厚2.2mm
●アンカーボルト	自動給水装置取付はケミカルアンカーを使用すること。	

別表 付属品・予備品 鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

○工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)	○パイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ラバーカップ (大、小)
○マンホールフック ○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス	
○盤類予備品 (ランプ及びヒューズの100%)	

試験・検査

●水圧試験	○排水漏水試験	●排水通水試験	○風量測定	○吹出口温度測定
○気密試験	○点火試験	●機器動作試験		
○騒音測定	○振動測定	●絶縁試験		
○消防設備試験	○水質検査	○水櫃水張り試験	●アンカー引張試験	

凡 例

記 号	名 称						備 考
		SGP-PB	HIVP	VP	SGP-(白)	その他	
—— —	給水管 (地中埋設、土間下部分)		●				
—— —	給水管 (一般部分、ポンプ室部分)	●					
—— W ——	給水管(直圧) (地中埋設、土間下部分)		●				
—— W ——	給水管(直圧) (ポンプ室 露出部分)	●					
—————	屋外排水管 (地中埋設部分)			●			
—————	屋外雨水管 (地中埋設部分)			●			
———	屋外污水管 (地中埋設、土間下部分)			●			
—————	雑排水管 (地中埋設、土間下部分)			●	●		
—X—X—X—X—	撤去污水管		●				
—X—X—X—X—	撤去雑排水管 雨水管		●				
—X—X—X—X—	撤去給水管	VLP-VA	●				
● _{FE}	埋設表示ピン (鋼製)						
□ _{PC}	埋設表示ピン (コンクリート製)						

保温・塗装の種類

名 称	管 材	屋内露出		屋内		屋外露出	コンクリート埋こみ
		ポンプ室 機器周り	屋内露出	天井インベイ 床下インベイ	PS		
給水管	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	D	D			C	防食テープ巻
排水管	硬質塩化ビニル管				B		

保温材料及び施工順序

記号	保 温 材	施工順序
B	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+アルミガラスクロステープ
C	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+ポリエチレンフィルム+ステンレス鋼板 (SUS304, 0.2mm) つや消し
D	ポリスチレンフォーム保温筒 (20mm)	粘着テープ+ポリエチレンフィルム+着色アルミガラスクロス

塗装及び防食施工順序

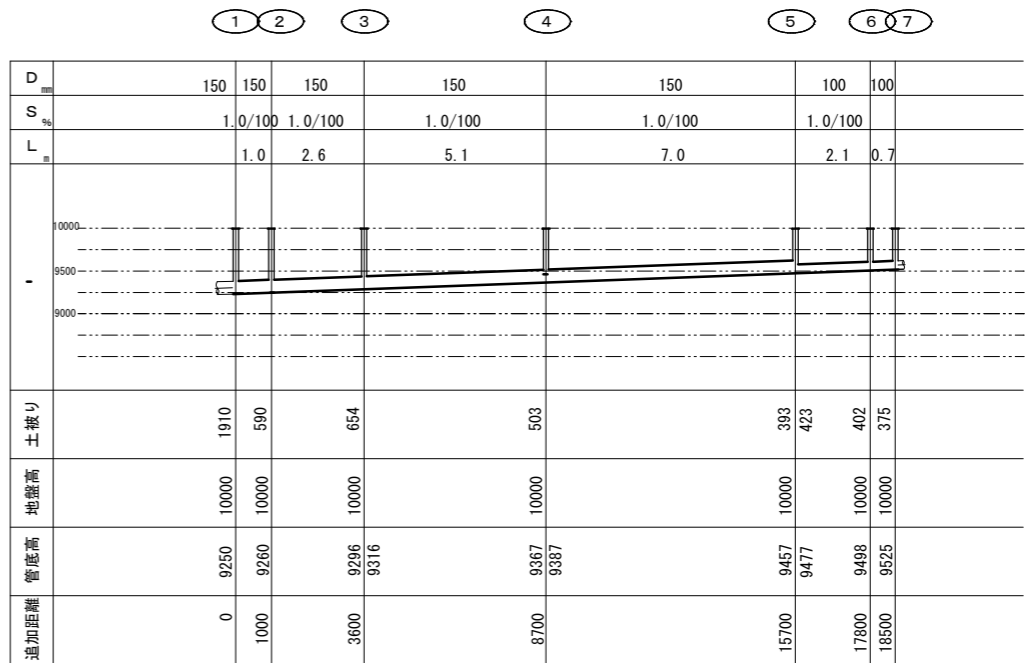
記号	施工順序
I	錆止め2回 (亜鉛鍍金部のみ下地処理としてエッチングプライマー1回+錆止め1回)
J	防食テープ巻き (ハーフラップ2回巻き)

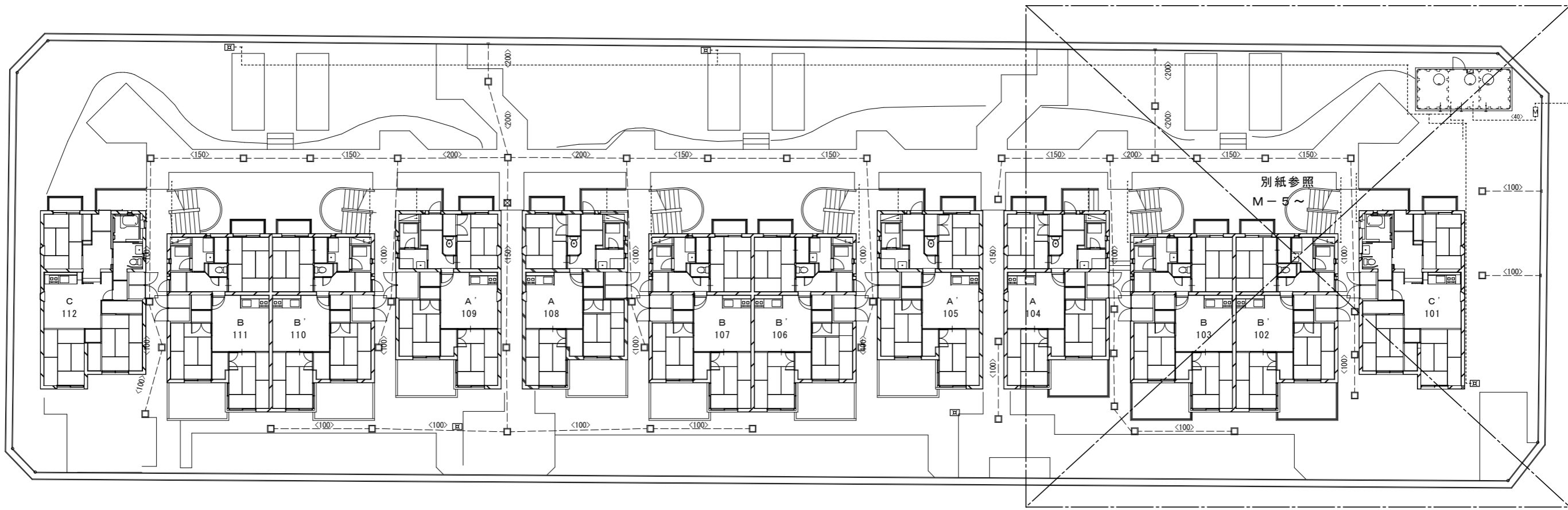
製造業者指定


NO	品 目	参 考 製 造 者 名 簿
1	衛生陶器及び附属品	TOTO (株) (株) LIXIL
2	排水金具 (マンホール・掃除口等)	ダイドレ (株) (株) 小島製作所 福西鑄物 (株)
3	屋内消火栓及び附属品	(株) 立売嚙製作所 (株) 横井製作所 (株) 北浦製作所
4	ポンプ(自動給水装置)	(株) テラル (株) 川本製作所 (株) 荏原製作所

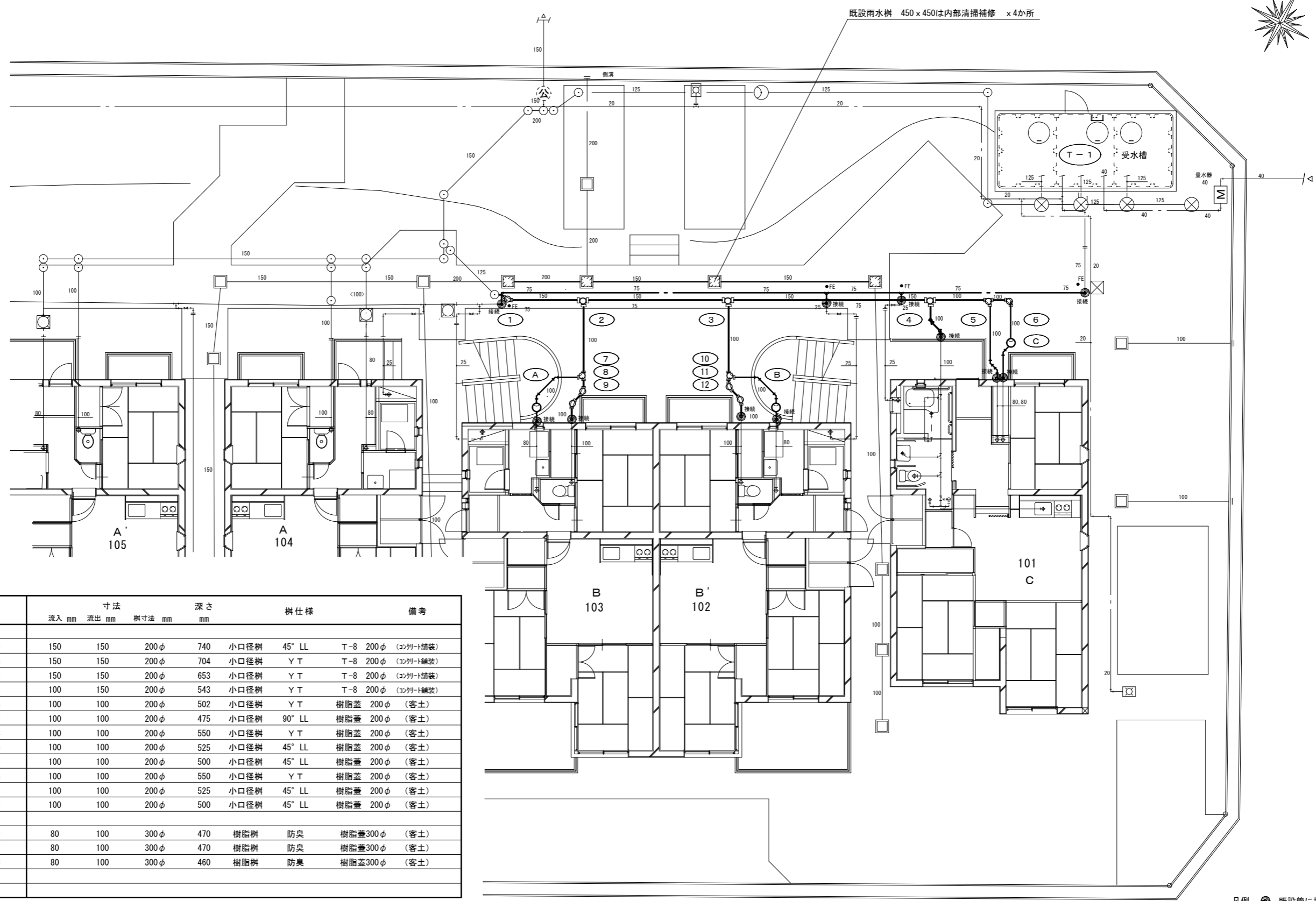
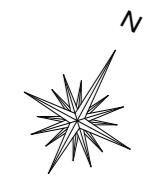
- 1) 上表中●印を適用する
- 2) 管材は下記の通りとする
 - SGP-PB 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管
 - SGP(白) 配管用炭素鋼鋼管
 - VP 硬質塩化ビニル管
 - HIVP 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管

污水排水管縦断面図





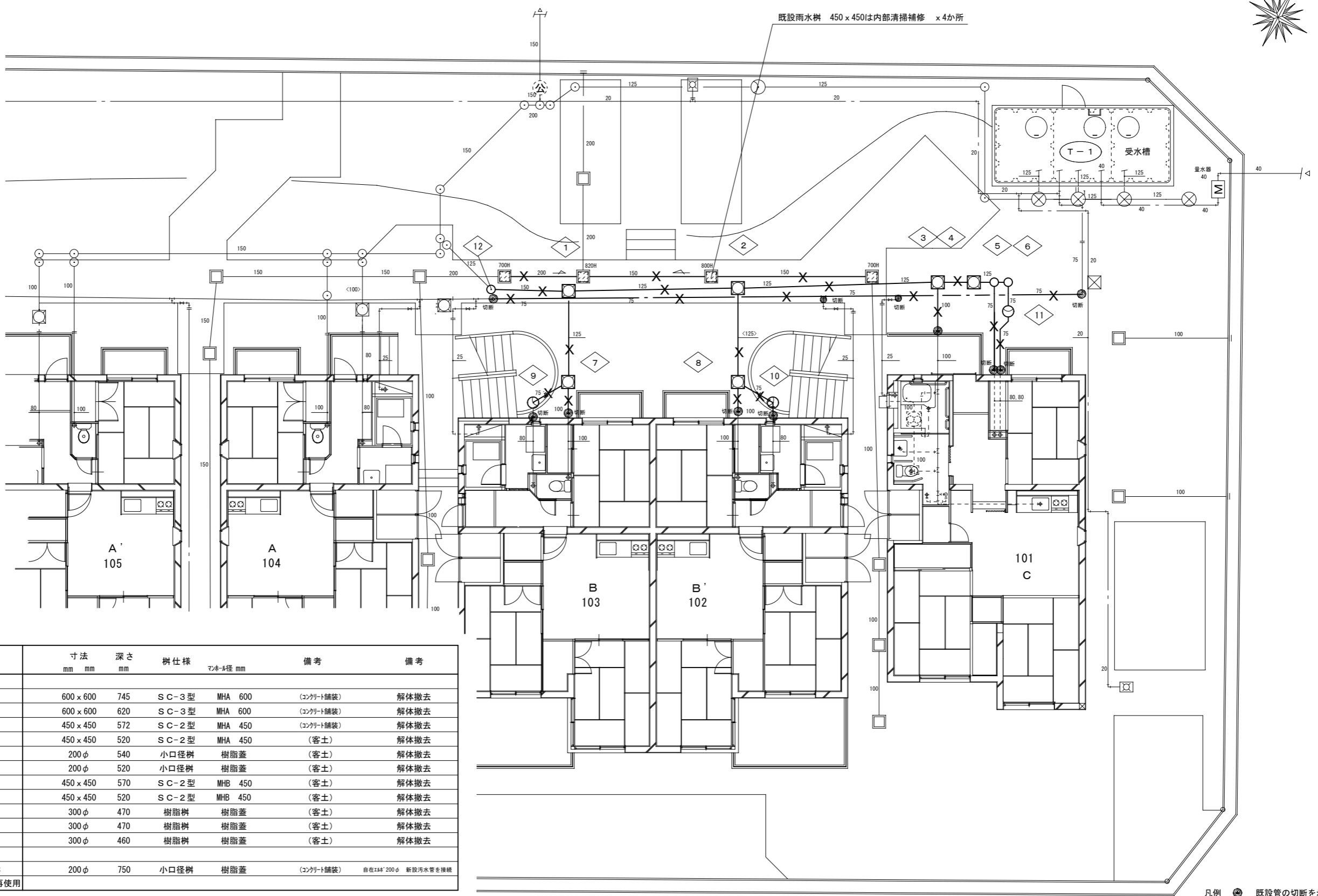
 足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾 1-65 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040	所長	主任	担当	工事名 神明宮東市宮住宅改修計画に基づく屋根ほか改修工事	縮尺 1/200	SHEET	年月日
				図面名 配置図	M-04		



新設 会所樹表

記号	名称	寸法		深さ mm	樹仕様	備考
		流入 mm	流出 mm			
①	汚水樹	150	150	200φ	740 小口径樹 45° LL	T-8 200φ (コンクリート舗装)
②	汚水樹	150	150	200φ	704 小口径樹 Y T	T-8 200φ (コンクリート舗装)
③	汚水樹	150	150	200φ	653 小口径樹 Y T	T-8 200φ (コンクリート舗装)
④	汚水樹	100	150	200φ	543 小口径樹 Y T	T-8 200φ (コンクリート舗装)
⑤	汚水樹	100	100	200φ	502 小口径樹 Y T	樹脂蓋 200φ (客土)
⑥	汚水樹	100	100	200φ	475 小口径樹 90° LL	樹脂蓋 200φ (客土)
⑦	汚水樹	100	100	200φ	550 小口径樹 Y T	樹脂蓋 200φ (客土)
⑧	汚水樹	100	100	200φ	525 小口径樹 45° LL	樹脂蓋 200φ (客土)
⑨	汚水樹	100	100	200φ	500 小口径樹 45° LL	樹脂蓋 200φ (客土)
⑩	汚水樹	100	100	200φ	550 小口径樹 Y T	樹脂蓋 200φ (客土)
⑪	汚水樹	100	100	200φ	525 小口径樹 45° LL	樹脂蓋 200φ (客土)
⑫	汚水樹	100	100	200φ	500 小口径樹 45° LL	樹脂蓋 200φ (客土)
A	雑排水樹	80	100	300φ	樹脂樹 防臭	樹脂蓋300φ (客土)
B	雑排水樹	80	100	300φ	樹脂樹 防臭	樹脂蓋300φ (客土)
C	雑排水樹	80	100	300φ	樹脂樹 防臭	樹脂蓋300φ (客土)

凡例 ● 既設管に接続



撤去 会所樹表

記号	名称	寸法 mm mm	深さ mm	樹仕様 マホル径 mm	備考	備考
1	汚水樹	600 x 600	745	SC-3型 MHA 600	(コンクリート舗装)	解体撤去
2	汚水樹	600 x 600	620	SC-3型 MHA 600	(コンクリート舗装)	解体撤去
3	汚水樹	450 x 450	572	SC-2型 MHA 450	(コンクリート舗装)	解体撤去
4	汚水樹	450 x 450	520	SC-2型 MHA 450	(客土)	解体撤去
5	汚水樹	200φ	540	小口径樹 樹脂蓋	(客土)	解体撤去
6	汚水樹	200φ	520	小口径樹 樹脂蓋	(客土)	解体撤去
7	汚水樹	450 x 450	570	SC-2型 MHB 450	(客土)	解体撤去
8	汚水樹	450 x 450	520	SC-2型 MHB 450	(客土)	解体撤去
9	雑排水樹	300φ	470	樹脂樹 樹脂蓋	(客土)	解体撤去
10	雑排水樹	300φ	470	樹脂樹 樹脂蓋	(客土)	解体撤去
11	雑排水樹	300φ	460	樹脂樹 樹脂蓋	(客土)	解体撤去
12	既存汚水樹 改修再使用	200φ	750	小口径樹 樹脂蓋	(コンクリート舗装)	自在148*200φ 新設汚水管を接続

凡例 ● 既存管の切断を示す



機器表 (改修)

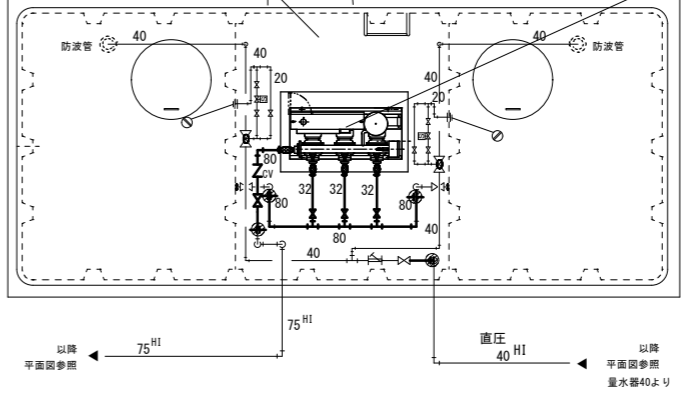
記号	機器名	仕様 電気容量 φ×v w	台数	参考品番、備考
P-1	自動給水装置 (ユニット型)	推定末端圧力一定方式 (インバーター制御) ステンレス製 50A×32A×220L/min×38mh×3φ×200V×1.1kw×2 ポンプ制御盤 (二槽式受水槽、電磁弁回路、緊急遮断回路) 付 3台ロータリー 2台並列運転 異常表示、外部信号、運転表示、少量停止機能、 仕切弁、逆止弁、圧力計、ベース、相フランジ 附属品一式共	1	ポンプ室 コンクリート基礎(再使用)
P-2	既設自動給水装置	圧力一定方式 ステンレス製 3台ロータリー 2台運転 50A×32A×220L/min×38mh×3φ×200V×1.1kw×2 ポンプ制御盤 付 附属品一式共	1	ポンプ室 NK-50VFC323型
T-1	既設受水槽	鋼板一体型 ポンプ室付 飲用水量 容量 22.5m ³ 耐震 1.0G 受水槽 2.5m×(2.0+2.0)m×3.7mH ポンプ室 2.5m×2.0m×3.7mH マンホール×3 内外ハシゴ 通気口×2 電極取付座×4 水槽内 VP防波管100φ、VPオーバーフロー配管100φ	1	屋外 再使用

T-1

既設受水槽 鋼板一体型 ポンプ室付
有効 22.5m³ 再使用

P-1

自動給水装置 制御盤付
仕切弁 80×1
仕切弁 32×3
球形ゴムフレキ 80×1
球形ゴムフレキ 32×3
逆止弁 80×1
圧力計、標準附属品共
コンクリート基礎 再使用



改修 平面図

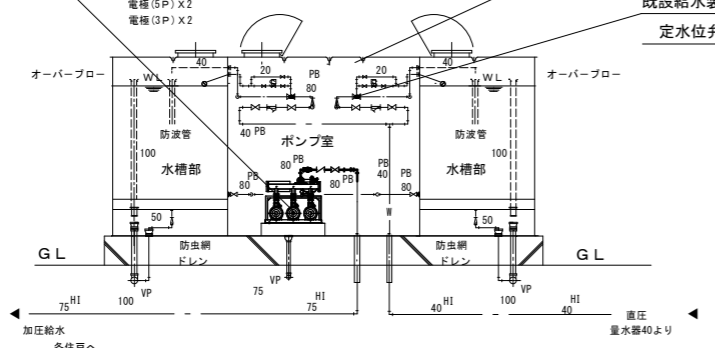
P-1

自動給水装置 制御盤付

T-1

既設受水槽 鋼板一体型 ポンプ室付
有効 22.5m³

既設給水装置 40×2組 再使用
定水位弁 40×2



改修 系統図

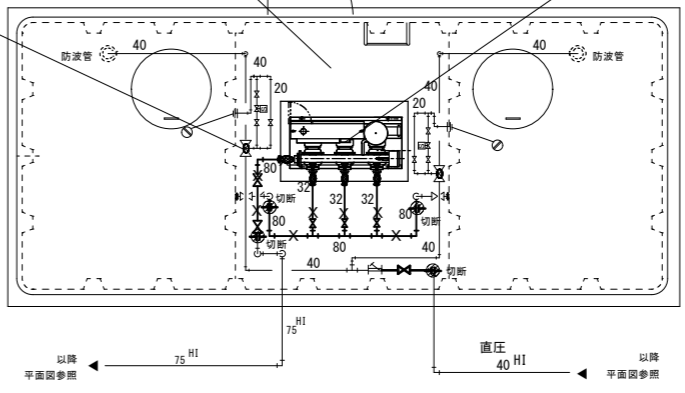
T-1

既設受水槽 鋼板一体型 ポンプ室付
有効 22.5m³ 再使用

P-2 撤去

自動給水装置 制御盤付
仕切弁 80×1
仕切弁 32×3
球形ゴムフレキ 80×1
球形ゴムフレキ 32×3
逆止弁 80×1

既設給水装置 40×2組 再使用
定水位弁 40×2
Y型ストレーナー 40(10K)×1
仕切弁 40(10K)×4
仕切弁 20(10K)×3 2組
電磁弁 20×2
ボールタップ 20×2
電極(保持器共) 3P×2
電極(保持器共) 5P×3



撤去 平面図

凡例

1 既設給水管に接続を示す。